



工学は未来をつくる

東京大学工学部長 染谷 隆夫

教養学部在籍される皆さん、工学部がお届けする「学科ガイダンスブック 2021」をご覧ください、ありがとうございます。

工学は、人類の福祉、健康、安心・安全のために新しいモノやコトをつくる学問体系です。工学のゴールは、科学技術の基礎を探究すると同時に、探究して創造された知を活かすことによって、新しい課題や社会における実問題を解決することです。つまり、工学は、今はできていないけれども、人びとが実現を待ち望んでいることを実現するためにあるのです。これは、夢を描いて、未来をつくる作業と言えます。

工学は中等教育課程で学ぶ科目に含まれていないため、大学に入学してから初めて工学に触れる機会を持ったことでしょう。そこで、一部ですが具体的な例を示しますと、IoT や AI を駆使したデジタル革命の推進、量子コンピューティングや量子セキュリティ、平和利用の宇宙開発、自動運転に代表される次世代モビリティ、超高齢化時代のまちづくりやヘルスケア、持続可能社会の実現にむけたクリーンエネルギーや新素材の探索など、いずれも現代の工学が取り組んでいる主要テーマです。工学部は、明治 19 年 (1886) 帝国大学工科大学として設置されて以来、時代とともに変化する社会の要請に応えるため、常にダイナミックに変化してきました。現在では、専門分野ごとに 16 の学科に分かれて、全学の約 1/3 の学部生が工学部に在籍しています。

現代社会においては、グローバル化とデジタル化の波によって変化が加速する中、工学教育も現代的なものに変化しています。工学部における教育は、学問分野の基礎を固めた上で、研究につながる高度で深い専門性を身につけられるようにデザインされています。例えば、数理学科のような基礎科目、深層学習などの情報科学、ゲノム編集に代表される生命科学、そしてアントレプレナーシップ、コミュニケーション、ファイナンスといった新しい科目など、伝統と革新のバランスを勘案した工学教育を実践しています。また、単一の学問分野だけでは解決が困難な問題にチャレンジするため、医工連携や経工連携などの分野融合を積極的に推進しています。

工学の研究教育プログラムを通じて、高い専門性、高度な課題解決能力、リーダーシップ、国際感覚を身につけた高度工学人材は、アカデミアや産業界はもとより行政や NPO など幅広く活躍の場を得て、社会の最前線で人類の福祉の発展に貢献し続けています。

さあ、工学を学び、私たちと一緒に未来への扉を開きませんか？



工学部からのキャリアパス

工学部に進学した7割以上の学生が大学院修士課程に進学し、高度な専門性を身につけ、社会に出て行きます。さらに、研究の先端を究めるために博士課程に進む学生もかなりの数に達します。

工学部卒業生は工学系研究科、情報理工学系研究科、新領域創成科学研究科、学際情報学府その他の研究科に進学します。外国の大学院に行く人もいます。

学部前期課程
1・2年生
教養学部
理科1類/2類



学部後期課程
3・4年生
工学部
全16学科



大学院
修士/博士

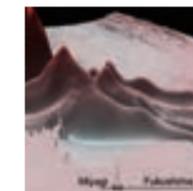
工学系研究科

情報理工学系研究科

新領域創成科学研究科

学際情報学府

社会へ



CONTENTS

工学部の歴史 3

学科紹介 7

社会基盤学科 7

建築学科 9

都市工学科 11

機械工学科 13

機械情報工学科 15

航空宇宙工学科 17

精密工学科 19

電子情報工学科 21

電気電子工学科 23

物理工学科 25

計数工学科 27

マテリアル工学科 29

応用化学科 31

化学システム工学科 33

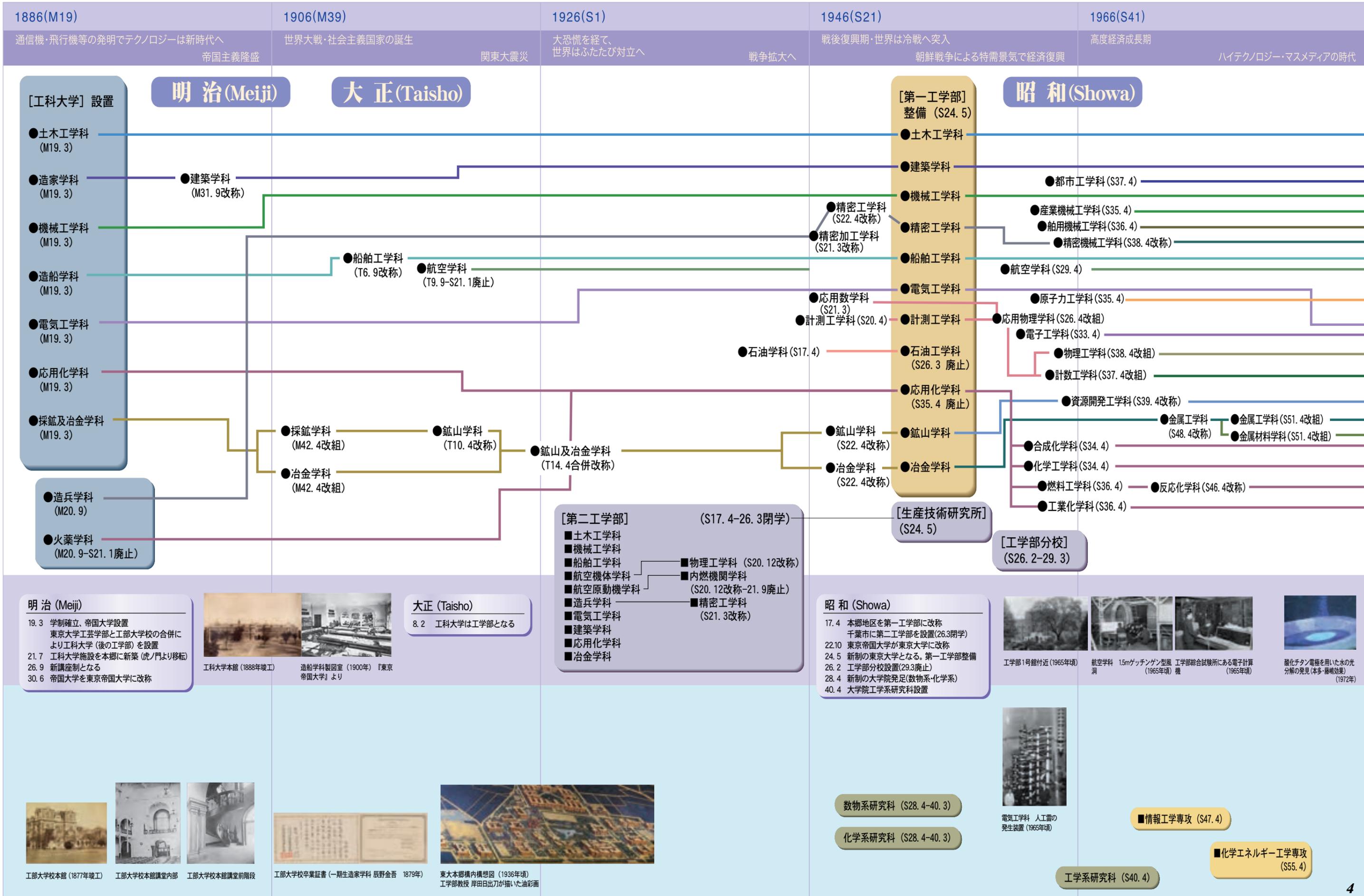
化学生命工学科 35

システム創成学科 37

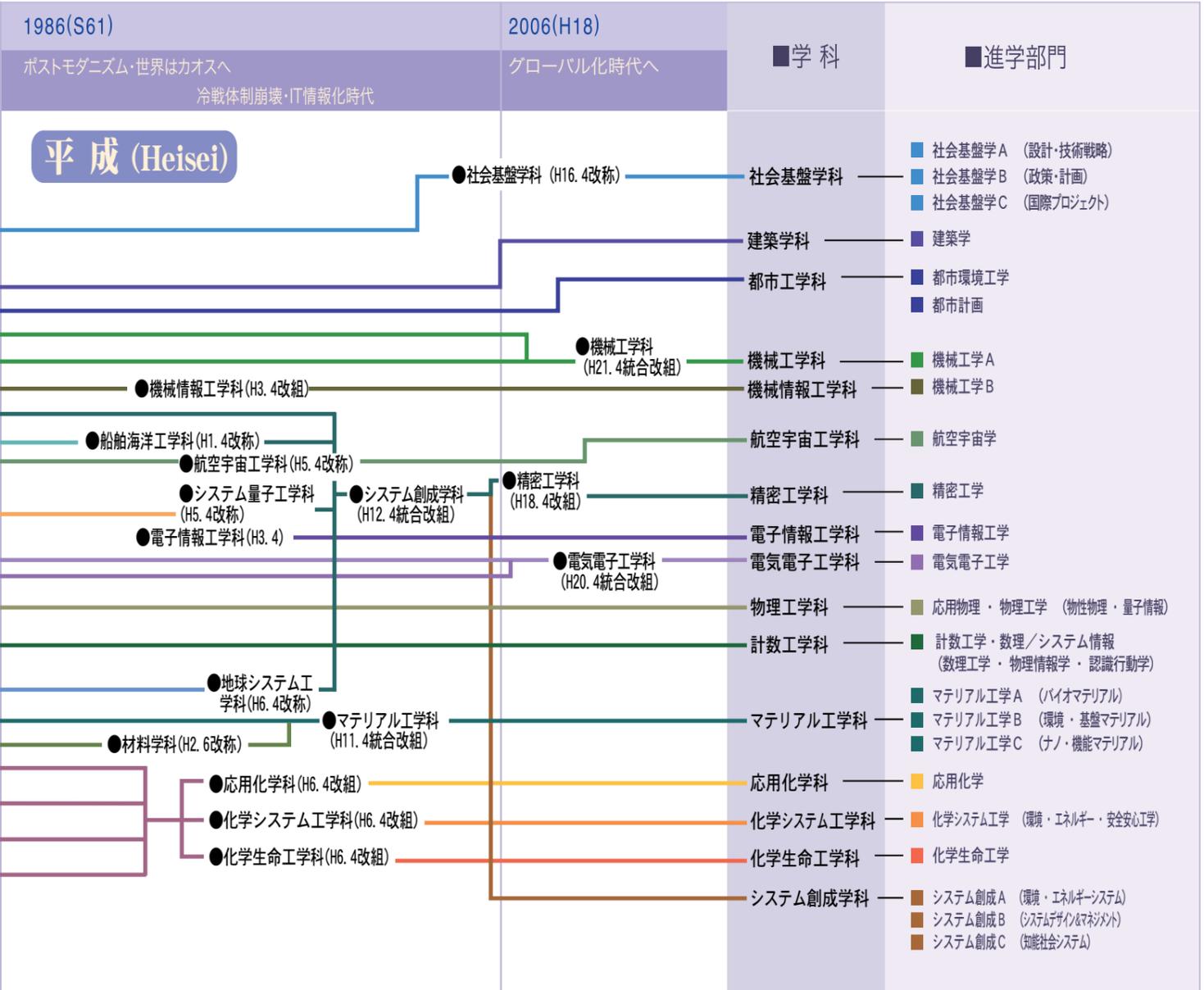


このロゴマークは様々な分野の「知」を集積し、それが一つの社会を創り出すという「工学知」の考え方を表現、3つの丸が有機的に結びつき TECHNOLOGY の T を示しています。工学部というと何となく固い印象を受けがちですが、このロゴは工学部という総体を上記のように表現した上で、柔らかい印象を与えるように考えられています。社会基盤学科卒業生によるデザインです。工学系研究科のロゴは、色違いのデザインを使用しています。

120余年の歴史を誇る東京大学工学部は、工科大学の設立時から現在に至るまで、教育・研究の最高機関であると同時に、我が国を代表するシンクタンクでもあります。常に時代のニーズに対応できるように、学科・専攻の設置、並びに既存の学科の改組・改称等を行いながら、各界をリードする多くの人材を育ててきました。大学院重点化が完了した現在は、学部と大学院との連携を強化した教育体制をとり、内外の研究機関や産業界の人々とも共同して、世界の最先端に行く研究、高度の教育を進めています。



君たちが、明日の歴史を創る。



平成 (Heisei)

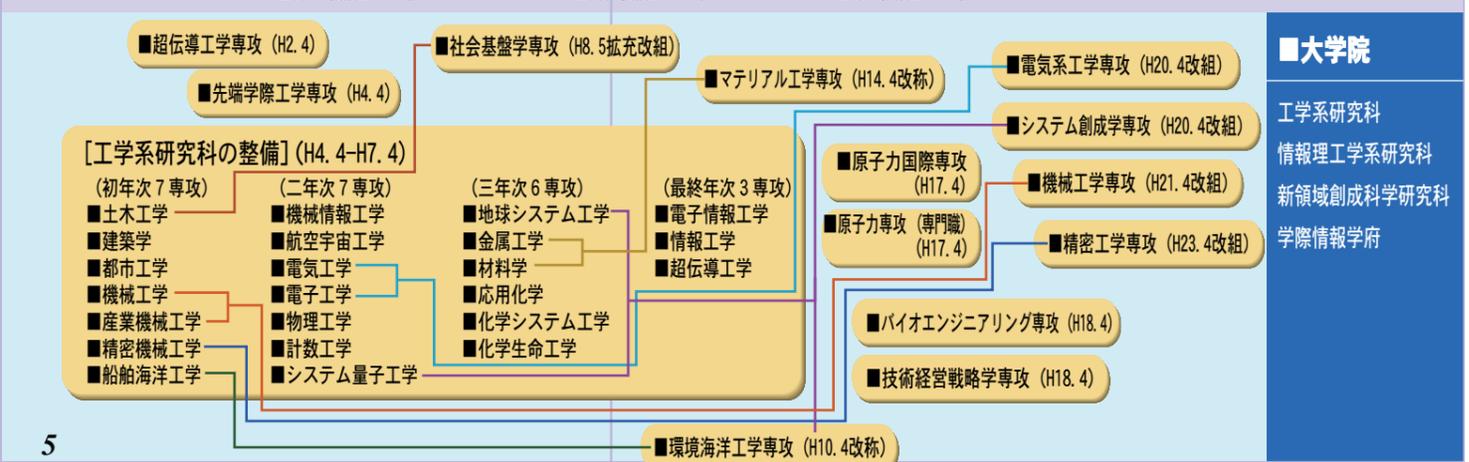
- 4.4 大学院重点化に伴う工学系研究科の整備開始
- 7.4 工学系研究科の整備完了
- 16.4 国立大学法人化「国立大学法人東京大学」となる

機械系三学科でCAD教育はじまる (1986年頃)

工学部14号館竣工 (1995年)

工学部2号館竣工 (2005年)

工学部3号館竣工 (2013年)



工学部進学部門の紹介

工学部の詳しい情報は、
<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/>
を御覧下さい。

社会基盤学A(設計・技術戦略):社会基盤学科
国土の将来像を描き、都市の骨格を創り、自然環境を保全活用するシビルエンジニアに求められる役割は広範かつ多彩であり、今や活躍の舞台は国際社会に拡がっています。社会基盤学A(設計・技術戦略)は、総合的な技術力と創造力を兼ね備え、国内外で活躍できるエンジニア育成を目指しています。
<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

社会基盤学B(政策・計画):社会基盤学科
社会基盤学B(政策・計画)は、私たちの暮らしている国土や都市や環境を、快適で美しく、便利で豊かにしていくための総合的な計画技術を扱います。国土や地域・都市・交通の計画、政策立案やプロジェクト・マネジメント、公共施設や風景のデザインなど、幅広い領域が舞台です。
<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

社会基盤学C(国際プロジェクト):社会基盤学科
国際社会で幅広く活躍できる人材の育成を目指し、社会基盤学C(国際プロジェクト)は創設されました。当コースでは、国際社会で活躍するために必要な総合的知識・能力の育成を目的として、国内・海外における様々な問題を対象とし、工学に限らずあらゆる分野の知識を動員して研究・教育を行っています。
<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

建築学:建築学科
建築学は、人間の「行動」とそれを支える「空間」のあり方を考察することで、人を心から納得させ、優れた活動を誘発し、社会にブレイクスルーを生み出す空間を実現する工学です。多様な価値を理解し、国内外で活躍するエンジニア、アーキテクト、コンサルタントの育成を目指しています。
http://www.arch.t.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

都市環境工学:都市工学科
今や環境問題は、世界の政治経済を動かす重要な課題となりました。地球規模の気候変動や人口の急変などに対応するため、21世紀に適した都市の環境を創造するのが都市環境工学の目的です。柔軟な思考と創造力をもって、都市を巡る様々な課題を解決する意欲にあふれた方を歓迎します。
<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/>

都市計画:都市工学科
現代の人間活動のほとんどは都市の上に成り立っています。都市を支える工学技術をベースに、経済学、社会学、法学、心理学など関連分野のアプローチも積極的に取り入れた学際的な研究によって、震災復興、スマートシティ、コミュニティデザイン、景観保全、グローバル化といった現代的課題に取り組みます。好奇心、行動力、そして熱意を持った方を歓迎します。
<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/>

機械工学A:機械工学科
豊かな社会や社会の持続的発展を支えるエネルギー、ものづくり、材料と力学などを、機械を通して扱います。大規模から微小スケールの視点、人間・社会・技術の総合的視野、産業・環境調和の視点を持ち、機械、機械に関連したソフトウェアやコンテンツ、医療・福祉・バイオを支え、新分野や境界領域を切り拓く人材を育成します。
<http://www2.mech.t.u-tokyo.ac.jp/kikai/>

機械工学B:機械情報工学科
情報に形を与え、モノを知的に動かし、人間・機械・情報の新しい結びつきを創る学科です。ロボット、マイクロナノデバイス、VR、神経と脳、人工知能、パターン情報処理などの研究を行っています。メカトロニクス、制御、力学、機械、ソフトウェアなどの基礎科目から先端技術までを体系的に学びます。
<http://www.kikaib.t.u-tokyo.ac.jp/>

航空宇宙学:航空宇宙工学科
航空宇宙工学の基礎を、理論、実験、計算の各方面から勉強します。空気力学、材料・構造力学、制御学、推進学などを中心に、基礎工学から始めて卒業論文、卒業設計で実力を試みます。将来の航空機やジェットエンジン、ロケット、人工衛星などの研究開発で活躍できる力を身につけます。
<http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/>

精密工学:精密工学科
ナノスケールの世界から目には見えないサービスまで、これからの産業を支える人材を育てます。機械物理、情報数理、計測制御の基礎から、メカトロニクス、設計情報、生産加工の基盤技術、そして先端分野としてのロボット、バイオ、医療まで体系的に学びます。
<http://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>

電子情報工学:電子情報工学科
「計算知能」「ソフトウェア」「コミュニケーション」「ネットワーク」「メディアデザイン」「インタフェース」という新しい社会文化や新産業の創出に資する必須技術や創造性を習得できます。わが国最大の産業の将来像を描き、新しい情報社会をデザインできる人を育てます。
<http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/>

電気電子工学:電気電子工学科
「環境&エネルギー」「ナノ物理」「システムデザイン」「高機能半導体」「電子デバイス・光・電波」「バイオ」という新しい社会創造の核となる革新的技術やシステムデザイン能力を習得できます。革新的技術こそが社会を変革できるということを夢にもつ人を育てます。
<http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/>

応用物理・物理学(物性物理・量子情報):物理工学科
物理学と数学の基礎教科と最先端研究に参加する卒業論文研究を通じて、科学的方法を身につけ、理学工学の枠を超え、新しい学問、産業を切り開く人材を育成輩出しています。就職指導は特に定評があり、先輩達はエレクトロニクス、情報等産学の幅広い分野で活躍しています。
<http://www.ap.t.u-tokyo.ac.jp/>

計数工学・数理/システム情報(数理工学・物理情報学・認識行動学):計数工学科
分野や業界に依存することなく、数学・物理情報の観点から工学一般で普遍的に役立つ概念や原理を習得する学科です。学科名は「計測+数理」に由来し、数理モデル、最適化、機械学習、計算科学、信号処理、制御、音・画像、感覚、生体、脳、ロボティクス、金融など極めて多岐に亘る研究分野を誇り、就職にも有利です。
<http://www.keisu.t.u-tokyo.ac.jp/>

マテリアル工学A(バイオマテリアル):マテリアル工学科
人工臓器や人工ウィルスのような、命と健康を守るバイオマテリアルの構造、合成法、機能などの基礎を生命科学にも踏み込んで学ぶコースです。マテリアルの環境負荷や半導体微細加工などにも目を向けながら、先端医療技術の新たな発展を拓いていく素地を身につけます。
<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

マテリアル工学B(環境・基盤マテリアル):マテリアル工学科
地球環境問題やエネルギー・資源問題の解決を念頭に、基盤マテリアルを中心とした様々なマテリアルとその製造・リサイクルプロセスについて学ぶコースです。先進医療技術から超微細加工技術までの先端技術を視野に入れつつ、持続可能な社会への道をリードしていく素地を身につけます。
<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

マテリアル工学C(ナノ・機能マテリアル):マテリアル工学科
高度情報化社会の発展の鍵となる、ナノサイズで構造や組成を制御したマテリアルとその特性や作製プロセスについて学ぶコースです。環境負荷低減や先進医療技術ともリンクした次世代の情報化社会へのブレイクスルーをもたらす新しいナノ・機能マテリアルを創製する基礎を身につけます。
<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

応用化学:応用化学科
応用化学科では21世紀に大きな発展が期待される生命、情報、新素材、環境の4つの領域において、「化学」という切り口で物質を合成、解析、制御、創製し、それらを統合して社会に役立つ学問の確立をめざしています。一緒に人類の未来を切り開いていきましょう。
<http://www.appchem.t.u-tokyo.ac.jp/>

化学システム工学:化学システム工学科
化学システム工学は、化学に対する広範な知識をベースに、対象を要素から構成されるシステムとして捉えるシステムの思考で、環境・エネルギー・医療・安全などの社会問題に現実的な最適解を提示するための学問です。実践的に独自の的方法論を身につけ、社会を先導する研究にチャレンジしませんか。
<http://www.chemsys.t.u-tokyo.ac.jp/>

化学生命工学:化学生命工学科
化学とバイオテクノロジーを基礎としたダブルメジャー教育と研究により、広い視野と深い洞察力を養い、21世紀の化学系生命科学分野をリードし活躍できる技術者、研究者等の人材を育成しています。来れ、化学とバイオに興味を持ち、チャレンジ精神旺盛な学生の諸君!
<http://www.chembio.t.u-tokyo.ac.jp/>

システム創成A(環境・エネルギーシステム):システム創成学
環境・エネルギー問題は人間が作り出した21世紀の問題です。俯瞰的に理解し、長期的かつグローバルな視点で取り組むべき学問的難題です。個別学術の枠を超え、科学・技術・社会システム・政策の基礎を学び、エネルギー源の創成、環境調和型技術の創成、持続可能な社会の創成に挑戦しましょう。
<https://www.si.tokyo.ac.jp/course/ee/>

システム創成B(システムデザイン&マネジメント):システム創成学
情報ネットワーク、エネルギー供給システム、経済・金融システム、交通システムなどの現代の社会を支える巨大で複雑なシステムに対して、環境変化に合わせて成長する「しなやかさ」と外乱の影響を緩和する「しぶとさ」を与えるため、デザインとマネジメントを一体としたノバティブな考え方とそれを実現する最新のシミュレーション技術などを体系的に学びます。
<https://www.si.tokyo.ac.jp/course/sdm/>

システム創成C(知能社会システム):システム創成学
モノ作りの基本技術からマネジメントまでの多彩で特徴ある教育プログラムにより、新しい製品・サービス・産業などを創出できる人材や、環境・行政・福祉・金融などにおける複雑な問題に対して果敢に挑戦して新しい社会システムを創成することのできる魅力ある人材を育成する。
<https://www.si.tokyo.ac.jp/course/psi/>



人間の生活や自然、社会に係る様々な 専門領域を包括する社会基盤学

次代のインフラストラクチャーを担う多彩で個性豊かな人材の育成を目指しています

TEL : 03-5841-6084 FAX 03-5841-6085
E-mail : shingakusentaku@civil.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

社会基盤学は、私たちの日常生活を支える技術体系です。たとえば道路や橋、駅や鉄道、物流や情報通信施設、遊水池や護岸などのインフラストラクチャーは、現代の快適な都市生活に欠かすことはできません。一方、都市をはなれて川や海、美しい山々を訪ねれば、そこにも豊かな自然環境を維持・保全していくための社会基盤技術が存在しています。

現代の生活は、人間が技術を利用して周囲の環境を改善し、保全することによって成り立っています。社会基盤学とは、私たちが文明的・文化的な生活を営むために必要なあらゆる技術を含み、人間が人間らしく生きるための環境を創造する大切な役割を担っています。社会基盤学が見据える環境は、身近な生活空間から地球環境に至る壮大なスケールの広がりを持っており、それを支えるシビル・エンジニアにも多様性が求められています。社会基盤学科では、国内外での次代のニーズに柔軟に応えられる多彩で個性豊かなシビル・エンジニアの育成を目指しており、皆さんの資質を活かせる場所がきっと見つかるはずです。

社会基盤学と学科の具体的なイメージは、プロモーションビデオでも紹介しています。
<https://youtu.be/7gLu70eu2qQ>



カリキュラム紹介

個性に応じた専門性を育てるカリキュラム

講義・演習・実習を軸にした体系的なカリキュラムを用意していますが、関心ある分野を各自で主体的に学んでほしいという意図から、必修科目を「社会基盤プロジェクト(卒業研究)」と「フィールド演習」のみとし、他学科・他学部の関連講義科目の履修への自由度を高くしてあります。

カリキュラム構成は (A) 設計・技術戦略、(B) 政策・計画、(C) 国際プロジェクトを三本柱に、シビル・エンジニアとして必須の工学基礎科目や、人文・社会・自然に関わる教養的科目、計画方法論や開発経済学、国際交渉などの実践的科目をバランスよく配置し、さらに講義で得た知識を演習や実習を通じてより実践的な職能へと昇華させるプログラムとなっています。

また、コロナ禍に対する学科の対応として、座学・議論はオンライン、実験・野外調査は対面といった、ハイブリッドな講義運営を行っています。

2021年度は十分な感染症対策を実施した上で、より効果的な対面講義の機会を増やす予定です。



2・3年生の時間割例

2年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 入門

	月	火	水	木	金
1限					
2限	構造の力学	社会技術論	基礎流体力学	社会基盤史	構造の力学
3限	基礎技術設計論 I	基礎技術設計論 II	水圏デザイン基礎	材料の力学	国際プロジェクト序論
4限	基礎情報学	情報科学の基礎	水理学	数学 1E	数理分析の基礎
5限	社会基盤学序論	Pythonプログラミング入門		データサイエンス入門	導入プロジェクト

3年 S1S2 (左がS1、右がS2) : 基礎の完結と演習

	月	火	水	木	金
1限		開発とインフラ	交通学		開発とインフラ
2限	マネジメント原論	都市学	統計解析手法	河川流域の環境とその再生	マネジメント原論
3限	地盤の工学	コンクリート工学	海洋工学	技術移転と企業と技術経営	少人数セミナー
4限	国際コミュニケーションの基礎 I	基礎プロジェクト II / III / IV	基礎プロジェクト II / III / IV		基礎プロジェクト I
5限	空間情報学 I				

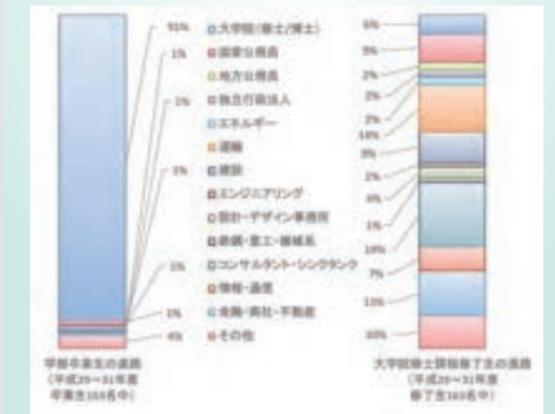
3年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 専門へのシフトと高度化

	月	火	水	木	金
1限	社会基盤のための経済・財務学 E			社会基盤のための経済・財務学 E	
2限	景観学	水文学	沿岸環境学	法學基礎	国際コミュニケーションの基礎 II
3限	空間情報学 II	計算地盤工学 E	構造物の計画と信頼性設計とリス	社会基盤技術の応用プロジェクト II	空間情報学 II
4限	応用プロジェクト III	応用プロジェクト IV	地球環境学	エネルギー開発の	構造設計特論 E
5限		応用プロジェクト V	構造力学 E	応用プロジェクト I	プロジェクトマネジメント

卒業後の進路情報

国内外に多彩な活躍分野

本学科・専攻の卒業生は、政策立案やプロジェクト管理を行うプランナーやプロジェクトマネージャー、技術開発、設計・デザインを行うエンジニアとして、国内外を問わず多様な分野で活躍しています。その対象も、社会基盤学が取り組む課題の幅広さに応じて、地球環境から海岸・河川流域、交通、都市計画やまちづくり、橋などの構造物まで多岐にわたっています。今後は環境問題に取り組むエンジニアやまちづくりのプランナー、空間デザイナー、海外のプロジェクトマネージャーへのニーズがますます高まると考えられます。いずれの分野・職能を選んだ場合でも、他分野の専門家と議論し、協働できる柔軟性と多様性が求められるでしょう。



先輩からひとこと!



分野横断的に幅広い知識を身につけられるので、興味のある分野を見つけられます。私は地震後の復旧に役立つ構造物変位推定の研究に取り組んでいます。ハードとソフト両面から人々の生活を支える学習・研究がしたい人におすすめです!
橋梁研究室 石原佳奈(Aコース)



自ら現場を訪れ様々な人や風景と出会いながら、私たちの生活を支えるインフラを学んでいます。実際の施工や、まちづくりの現場で活躍される先生方の指導は厳しく、悩みも多いですが、それだけやりがいも多い分野です。
景観研究室 上林就(Bコース)



レベルが高くモチベーションに溢れた刺激的な仲間と、それを親身に全力でサポートして下さる一流の先生方が集う場です。座学や実験のみならず、先生方や仲間たちと共に行うプロジェクトや現地調査など様々な経験ができます。国際的な活動に触れる機会も多く、種々の海外インターンや留学プログラムが提供されています。
国際プロジェクト研究室 日比野仁志(Cコース)



座学で学んだことを演習や少人数ゼミで実践できることが大きな魅力です。例えば土質 / 地盤研の少人数ゼミでは、感染症対策に細心の注意を払いながら千曲川流域で現地調査を行い、台風19号(2019年)による堤防の破堤メカニズムを確認しました。同期や先生も親しみやすい人が多く、対面ではなかなか会えない中、同期での zoom 飲みや先生方主催のメンター会で頻りに交流しました。
学部 3年 福谷きり(Bコース)



「新しい国際社会の礎となる空間構築をめざして」

建築学科では、人間の行為と空間のあり方を精緻に考察し、
社会に革新的な価値をもたらす空間を生み出す国際的な人材を育成しています

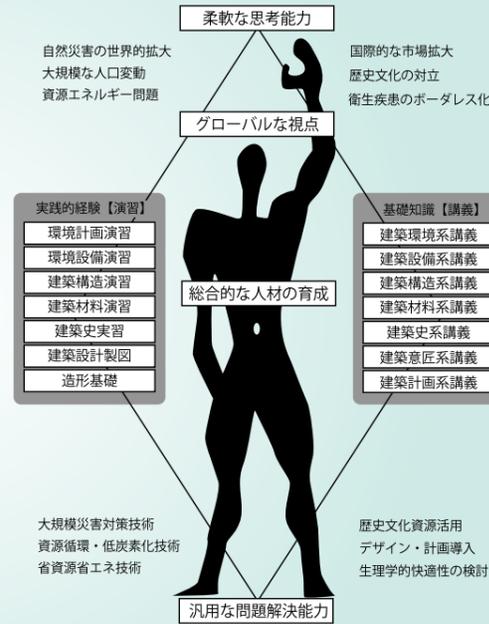
TEL : 03-5841-6213 FAX : 03-5841-6186

E-mail : office@arch1.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://arch.t.u-tokyo.ac.jp

学科の紹介

建築空間は、世界中のあらゆる人間活動を支えています。このため、建築学の学術領域は実に広く総合的であり、社会とのかかわり合いも密接です。「ものづくり」でありながら、長いものは何百年と使い続けられるため、長期的な運用を想定した高度な災害対策技術、メンテナンス技術、省エネ技術、材料開発、空間計画が求められています。また、すでに古くなった建築空間をうまく活用できるデザインや技術を導入することで、歴史や文化を残しながら社会に新しい活力を生み出す「場所」を提供することも重要な使命です。海外に目を向けると、世界規模で拡大しつつある環境問題、都市問題に対して、わが国の高度な建築技術とデザイン・アプローチは不可欠であり、国際貢献や海外展開という位置づけでの建築学のあり方がますます重要になってきています。このように、建築学科では、専門知識だけではなく、幅広い視野と柔軟な思考力をもって、世界中の人々の活動の礎となりうる空間を生み出す人材を育成することを目標としています。



3年生の時間割例

建築学科の時間割は、講義と演習がバランスよく配置されており、建築分野で求められる知識を基礎から実践まで総合的に学べるとともに、各自の興味に従って選択科目を選ぶことで得意分野を伸ばすことが可能です。

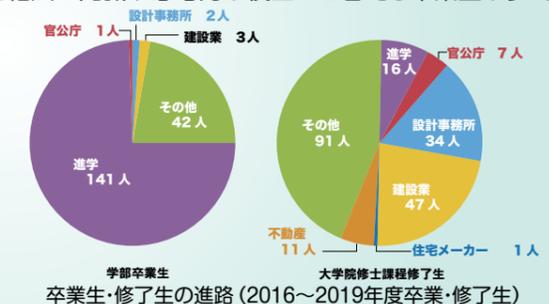
また要求科目を選択することで、一級建築士の受験資格を得ることが可能です。

3年 S1

	月	火	水	木	金
1限		建築構造解析第二	建築音環境	建築光環境視環境	建築構造計画
2限	建築設計理論第一	建築材料科学	日本建築史	建築計画第一	建築材料科学
3限		荷重外力論第二	建築塑性学		
4限	建築設計製図第三	建築生産マネジメント概論	建築材料演習	建築設計製図第三	
5限		建築法規			造形第三

卒業後の進路情報

建築学科を卒業した学生の多くは大学院に進学しますが、4年生を卒業するまでのカリキュラムによって、他の学科にはない極めて柔軟な思考力と問題解決能力が備わってきます。このため、近年の就職先は建築業界にとどまらず極めて多様化しています。建築設計事務所、建設会社、官公庁だけでなく、構造設計、設備設計、都市計画行政、広告代理店、損害保険、投資銀行、コンサル、IT企業、国際事業など非常に広範囲になってきています。こうした分野に就職しても、建築学科で学んだ幅広い知識や思考力が役立つと答える卒業生が多く、柔軟な知識が様々な分野で役立てられているようです。また、国際的な視点でみると、建築産業は最も巨大な市場の一つであるため、国内の建築系企業が海外に進出しようとする気運が加速度的に高まっています。特に、災害対策技術・設備・材料・デザインといった輸出品目を中心に、人材育成と国際化に投資しようとする気運が高まっていますので、建築業界への可能性は国際的な視点へと大きく広がっています。



カリキュラム紹介

建築学科のカリキュラムは、学術体系から選び抜かれた「エッセンス」を理解してもらう「講義群」と、これらを体得する「演習群」の2つから構成されています。これは、得た知識を実践することで、効率よく理解されることを目指しているからです。

また、いくつかの演習が分野を超えてジョイントする指導体制になっています。例えば、3年生S1学期の材料演習で各自が作った建築材料を3年生A1学期の構造演習で破壊試験することで複合的な理解が促されますし、デザインの教員とエンジニアリングの教員による海外を敷地とした合同設計製図なども開催されます。そして、カリキュラムの総仕上げである卒業論文・卒業制作においては、設計製図の制作物にこだわることなく、各自の知的興味に応じて研究・制作することを推奨し、自作の研究用実験装置や大規模自然災害に対応する新しい住宅制度の提案など、学生の自主性と独自性を十分に発揮できる評価体制をとっています。こうして、建築学の学術体系をもとに専門的知識と問題解決能力をあわせもつ総合的な人材育成を目指しています。



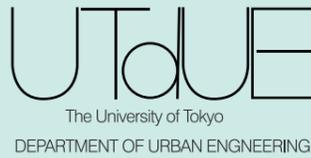
学生の皆さんへのメッセージ

建築学科では、人間と空間についての様々な現象について多角的な教育をしています。また、世界中の様々な「もの」だけでなく、「ひと」を工学的に扱うことも大きな特長です。学生の皆さんには、次のような広い興味と関心をもって是非取り組んでほしいと考えています。

- (1) 建築は、わが国の誇るべきものづくりの一つです。ハードからソフトまで、工学的に幅広く興味を持って学んでほしい。
- (2) 建築物は、多くの人に利用され、機能することによって、社会に大きく関わることができます。社会、文化、経済に対する影響についても大事な気持ちを持って学んでほしい。
- (3) 人口問題、環境問題、衛生問題、経済問題といった国際問題の多くは、「住まう」ことがもとになって起こる問題です。建築学はこれらの問題を解く基礎学術であり、建築業はそれを実現する産業です。今後の国際社会において重要な役割を果たしうることを意識してほしい。



エネマネハウス2014
学んだ建築学を活かして5大学中で最優秀を受賞



「都市」について深く考えることは、
この「社会」について 広く考えること

都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています

TEL : 03-5841-6216 FAX : 03-5841-0370
E-mail : kyoumu@ue.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

都市工学科は、都市の時代ともいえる現代の社会的要請に応えるために設立された学科です。都市問題及び環境問題の重要性が広く一般に認識され始めた1962年に学科が発足し、1966年に第1回卒業生を送り出しました。また、1966年には大学院修正課程が、1968年には博士課程が開設され今日に至っています。

都市工学科には、都市計画コースと都市環境工学コースとがあり、それぞれが環境問題や都市問題を解明するための専門的カリキュラムを組んでいます。都市工学科設立の目的は、都市のフィジカルプランナー（すなわち物的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者）の教育・養成、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよびます。また、工学技術にその基盤を置くことは当然ですが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野です。

3年生の時間割例

：必須科目。他は当学科の限定科目選択をすべて選択した場合の時間割です（今後変更される可能性があります）。
限定選択科目を所定単位数以上修得すれば、それ以外は他学科、他学部科目も制限なく卒業に必要な履修単位数に算入可能です。

3年 S1S2

	月	火	水	木	金
1限	応用水理学	広域計画	生態学・生態工学	環境微生物工学	
2限	都市住宅論	地域デザイン論	土地利用計画論	都市・まちづくりと法	水環境学
3限	応用統計		環境反応論	都市工学演習 A 第一(計画)	都市工学演習 A 第一(計画)
	都市工学の技術と倫理	都市工学演習 B 第一(環境)		都市工学演習 A 第二(環境)	都市工学演習 A 第二(環境)
4限	都市工学数理		都市交通システム計画		
	都市工学の技術と倫理				
5限	都市工学の基礎(Ⅰ)	都市工学論第一			

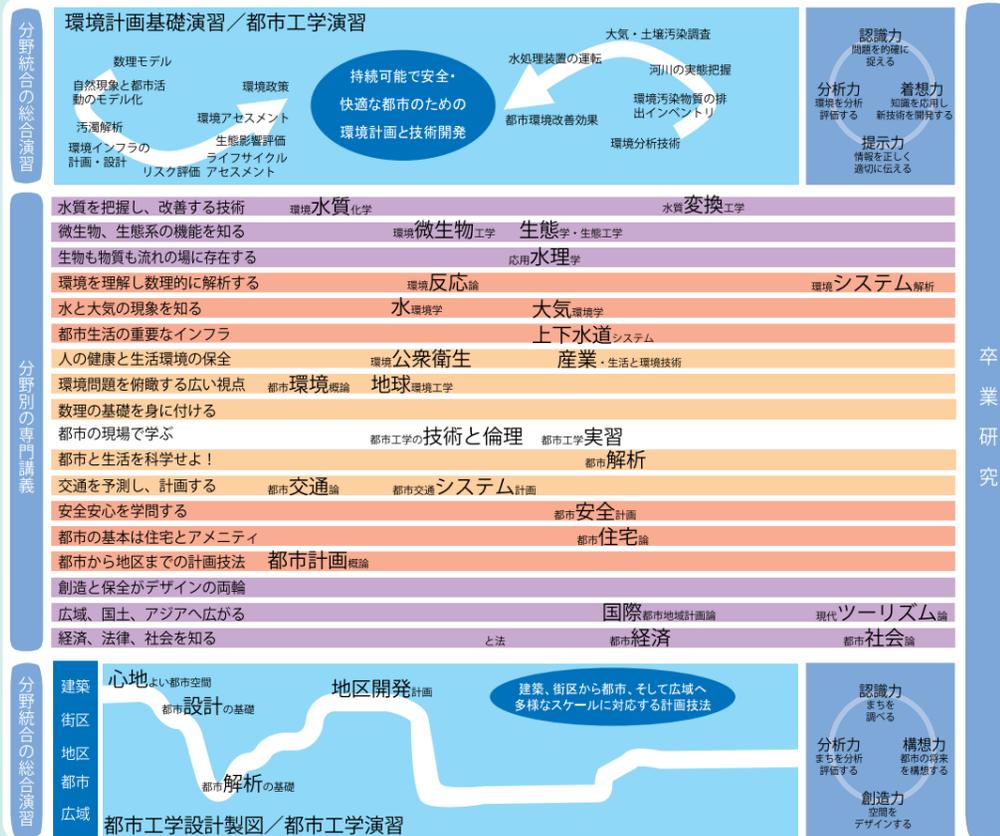
3年 A1A2

	月	火	水	木	金
1限		まちづくり論		水質変換工学	
2限	都市計画史	都市経済	国際都市地域計画論	廃棄物資源循環学	都市安全計画
3限	上下水道システム	都市工学演習 A 第二(計画)	産業・生活と環境技術	都市工学演習 A 第二(計画)	都市工学演習 A 第二(計画)
	都市開発プロジェクト論	都市工学演習 B 第二(環境)	大気環境学	環境工学演習第二(環境)	環境工学演習第二(環境)
4限					
5限	都市開発プロジェクト論	都市工学論第二	都市工学の基礎(Ⅱ)		

カリキュラム紹介

カリキュラムは、都市計画と都市環境工学の専門的領域と都市の工学的な課題全般をカバーしています。都市問題は多様化しており、都市とその環境を主たる対象としていますが、国土全体から農山漁村を含む地方圏にまで及んでおり、土地利用、交通、空間、防災、地球環境、水環境、廃棄物などの分野で、調査・解析、計画、都市デザイン、手法、技術について幅広く授業を組んでいます。

カリキュラムの中心は演習であり、現実の課題に取り組み自らの考えで都市を捉え構想する力を養います。知識、体験、計画・デザインの基本スキルを獲得し、新しい問題に対応できる豊かな発想の育成が目的です。また、都市工学は、経済、法律、社会、歴史など社会人文科学とも密接な関係にあるため、必修科目の設定を極力少なくし、他学部聴講も含め学生の関心や意欲に沿った柔軟な履修を可能としています。



卒業研究

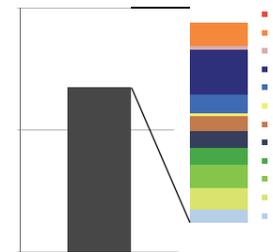
学生生活風景



若手県大榎町、吉里吉里集落で震災前の環境保全の現場の状況を想像しながら、繰り返し実験を行います。環境問題は世界共通。海外で関係者にヒアリングする機会もあります。都市ヒートアイランドの環境シミュレーションの結果を表示しています。卒業設計では普通の机には乗り切れないほどの大きな模型を作成します。

卒業後の進路情報

この10年の学科卒業生の進路の実績をみると、約2/3が大学院修士課程（留学を含む）に進学しています。残りの1/3程度が就職しますが、その進路は、民間では建設・設計・不動産、運輸、コンサルタント・シンクタンクなど都市工学科に深く関連する部門を中心としつつ、近年では商社、金融・保険、通信・IT・メディア・広告、金属・重工・メーカーなど、極めて多様になってきています。公務員への就職も、国土交通省、環境省をはじめとする省庁や、地方自治体への就職の実績があります。国家公務員への就職は、修士課程修了後の就職でより大きな割合となっています。



先輩からひとこと!

■おいしい水を皆さんへ
田中美奈子(2000年卒/自治体)
水処理に係る部署で勤務していますが、水処理技術だけでなく、管路・ネットワーク整備・料金・政策など業務は多岐にわたります。都市工学科で学んだ水処理や水質分析の知識が大いに役立っています。



■環境インフラで社会に貢献
高橋淳太(2011年卒/環境装置メーカー)
水インフラの研究開発・設計・施工、維持管理から官民連携による事業運営まで手がける会社に勤務しています。都市工学科で学んだことが、日々の業務の基盤であり、かつ最先端であることを実感しています。



■海外経験を踏まえての都市の計画づくり
水谷宏杉(1996年卒/設計事務所)
留学や海外での就業経験も踏まえて、東京都心ほか国内外の都市で計画づくりに携わっています。「場」が持つ可能性を読み解きながら、新しい価値を生み出すための将来像を提示し、連携して形にしていける仕事です。



■鳥の目・虫の目で都市と向き合う
山田渚(2007年卒/自治体)
都市計画法に基づく開発許可や、都市計画マスタープランの策定、住民主体の建築協定の締結支援などの業務に携わっています。都市工学科で学んだ、様々な視点で都市と向き合う姿勢が生かされていると感じています。





「デザイン・エネルギー・ダイナミクス」

社会のための科学技術～実学の知・新価値の創造～

TEL : 03-5841-6300 FAX : 03-3818-0835
E-mail : kyoumu@office.mech.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.mech.t.u-tokyo.ac.jp/kikaiA/index.html

学科の紹介

「分析」と「統合」の学術コアが織り成す新価値創造へ

機械工学のミッションは「社会のための科学技術」を実現し、社会の直面する複雑な問題を解決することにあります。現在では、環境・資源制約の下で、安心安全で豊かさの感じられる持続的な社会を構築することにその重点が置かれています。学問・学術的には、伝統的な機械工学自身を深めると同時に、学際分野・基礎科学と連携して新領域を開拓し、社会に求められる技術や価値を創造するための基盤的な知の体系を築いていくことを常に目標としてきました。

このように機械工学科は、学問研究や社会事象を俯瞰して機械工学の視点で共通原理・法則を導出し、他の学術分野および社会と密接に連携しながら新産業創出を担う人材を育成します。機械工学の知識を幅広く選択・融合・適用して社会が希求する重点分野（環境・エネルギー、バイオ・医療、安心・安全、ナノ材料・ナノダイナミクス）をさらに先導的に推進していきます。



カリキュラム紹介

四力学を基礎として、デザインをアクティブラーニングで学ぶ

機械工学の学術基盤は、材料力学、熱工学、流体力学、機械力学の四力学を中心としたアナリシス(分析)の学術コアと、設計や生産などのシンセシス(統合)の学術コアとで織り成される縦糸と横糸のマトリクスです。このゆるぎないマトリクスの上に、多彩な応用技術に関わる知識体系が築かれています。

2年生はAセメスターより本郷での実践的な教育が始まります。3年生になると一人1台ノートパソコンが配布され、スターリングエンジンの設計製作・ソフトウェア・メカトロニクスなどの演習を通じて実践的なものづくりを学びます。2019年にアクティブラーニング教室を新設し、学生間の活発な議論を促し、コミュニケーション能力、リーダーシップの能力の育成に力を入れています。Aセメスターには、研究室を体験できる講義やインターンシップが開催され2年生・3年生が参加できます。4年生に進級すると同時に各研究室に配属されて卒業論文に着手し、高度な研究を通じて各人の問題解決能力を養うこととなります。

	2年	3年	4年	
講義	<p>■数学</p> <p>■四力学</p>	<p>■制御・ソフトウェア</p> <p>■設計・生産</p>	<p>■ナノテクノロジー</p> <p>■環境・自動車工学</p> <p>■航空・宇宙・産業</p>	
演習	<p>■設計製図(CAD)</p> <p>■スターリングエンジンの演習</p>	<p>■ソフトウェア演習</p> <p>■機械工学実験</p>	<p>■メカトロニクス演習</p> <p>■デジタルエンジニアリング演習</p>	<p>卒業論文</p>

3年生の時間割例

3年 S1S2

限	月	火	水	木	金
1限	機械分子工学第一	熱工学第二	ヒューマン・インタフェース	生産システム	流れ学第二
2限	設計工学	(S1) ロボティクスI (Robotics I) (S2) ロボティクスII (Robotics II)	数学2B	システム制御2	材料力学第二
3限	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二	数学2B	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二
4限	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二		機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二
5限			数理手法IV		

3年 A1A2

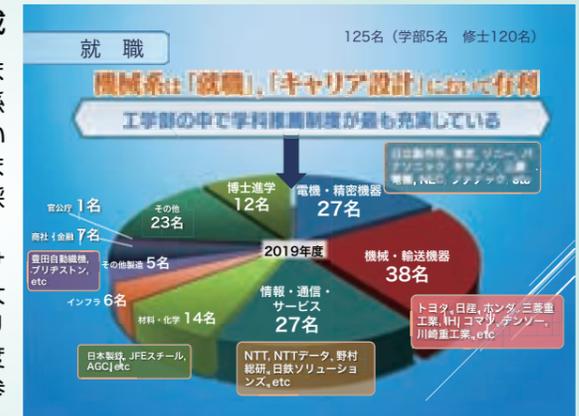
限	月	火	水	木	金
1限	環境エネルギーシステム 神経と脳	電気工学通論第二	機械分子工学第二	パターン情報学	生産プロセスの設計
2限	生体機械工学 ロボットシステム	有限要素法 ロボットインテリジェンス	機械系数理工学	機械材料学 ロボットコントロール	機械力学第二
3限	創造設計演習	機械系四力学	産業総論 数理手法III	創造設計演習	創造設計演習
4限	創造設計演習	機械系四力学	機械工学少人数ゼミ 機械工学英語特講	創造設計演習	創造設計演習
5限		数理手法VI			

卒業後の進路情報

伝統ある就職推薦制度と同窓会を通じたキャリア形成

機械工学科の学生の9割は修士課程進学後に就職します。就職する学生の6割以上が、企業との相互信頼関係の下で学科が運営する学科推薦制度を使って就職しています。本制度は、応募企業を1社に決める必要がありますが、大変な就職活動を経ることなく、高い確率での採用が実現しています。

また、東大機械同窓会では、学生のキャリアパスをサポートする「機械技術セミナー」を開催しています。東大機械の卒業生と現役生の交流を通じて、産業界・キャリアパスのことを学ぶことができます。毎年、40社程度の企業、機械系のほとんどの学生(延べ200人程度)が参加する名物イベントです。



卒業生からのメッセージ

「上位概念に登って思考の谷を越える」



機械屋の醍醐味、それは他分野の知識までもを総合し、機械をまとめ上げること。入社8年目で自分が1から開発をまとめた電車が走り始めた感動は、今も忘れられない。失敗学によると、人間が新しいことに挑戦すると必ず失敗する。過去の他分野の失敗を上位概念で知識化することにより、自分の課題に具象化すれば、思考の谷を越えて失敗を未然防止できる。そのように失敗を生かし成功に結びつける、それがプロの機械屋だと思う。松岡茂樹(1986年修士修了(株)総合車両製作所 技術部部長(国際規格・オープンイノベーション))

「社会に出てから再認識する学んだことの重要性」

教養課程での基礎学問の習得から、機械系進学後は常に応用(製品)の視点が入ってきます。卒業生の多くが活躍する製品開発の現場ではより良いモノを作るために必要な知を自ら探求し、具現化することが求められます。機械系での学生生活はその良い準備期間になっていたと感じています。社会に出て実践を積むに従い、授業で学んだ知識に加え、機械系で教わったエンジニアとしての考え方・心得の重要性、「本質を見抜く力」という言葉の意味を再認識している現在です。



水野沙織(2010年学部卒 マツダ(株)パワートレイン開発本部)



「人を知り、ロボットを創る。ロボットを作り、人間に近づく。」
 情報に形を与え、モノに命を吹き込み、未来を創出する人を育てる学科です

TEL : 03-5841-6300 FAX : 03-3818-0835
 E-mail : kyomu@office.mech.t.u-tokyo.ac.jp
 URL : http://www.kikaib.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

知能、機械、情報の融合

機械情報工学科では、人間と機械と情報を結び理論とシステムを創造可能なグローバルな視点を持ち、さらに緻密に思考できる次世代のリーダーや研究者の育成を目的としています。そのために、情報学と機械工学を複合的に教育することによって、人を知り、デザインし、形あるものを創造するための確固たる知識と経験を持つ人材を養成します。4年生になると全ての学生は研究室に配属され、講義演習で獲得した知識と経験を基盤とし、卒業研究に取り組むことで、世界をリードする成果を生み出すことを目指します。卒業研究のテーマは、知能ロボット、脳型情報処理、人工知能、神経と脳、バーチャルリアリティ、ヒューマンインターフェース、CSCW、医療情報処理、フィールドロボティクス、マイクロマシンなど多岐にわたります。



日常生活ヒューマノイドロボット



ヒューマンインターフェース 脳型情報処理 バイオハイブリッドロボット 人工知能ゴーグル

カリキュラム紹介

ロボット分野は機械・情報・生体などの知識の集約

機械の基礎・情報の基礎と人間にまつわる知識を集中的に体得します

カリキュラムの前半は、基礎科目となる数学、四力学(材料力学・熱力学・流体力学・機械力学)など、後半では機械系、情報系、人間系の専門科目の講義があります。また、実際の設計や製作に必要な知識や経験を習得するための演習科目が充実しており、特に3年生A1A2の演習では、画像処理、マイコン、CG、ロボット製作・制御・行動プログラミング等のスキルを獲得し、最後に、企画、設計、製作、発表までを学生自身が自主的に行う自主“プロジェクト”が実施されます。

4年生になると全ての学生は研究室に配属されます。卒業研究に取り組むことで、創造力、計画力、分析力、コミュニケーション力が醸成されます。



画像処理・CGプログラミング



マイコン・電子回路演習



ロボット行動プログラミング



自主プロジェクト製作・発表

3年生の時間割例

3年 S1S2

限	月	火	水	木	金
1限	ソフトウェア第二 機械分子工学第一	熱工学第二	ヒューマン・インターフェース	生産システム	流れ学第二
2限	設計工学	S1) ロボティクスI (Robotics I) S2) ロボティクスII (Robotics II)	数学 2B	システム制御 2	材料力学第二
3限	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二	数学 2B	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二
4限	機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二		機械工学総合演習第二	機械工学総合演習第二
5限			数理手法 IV		

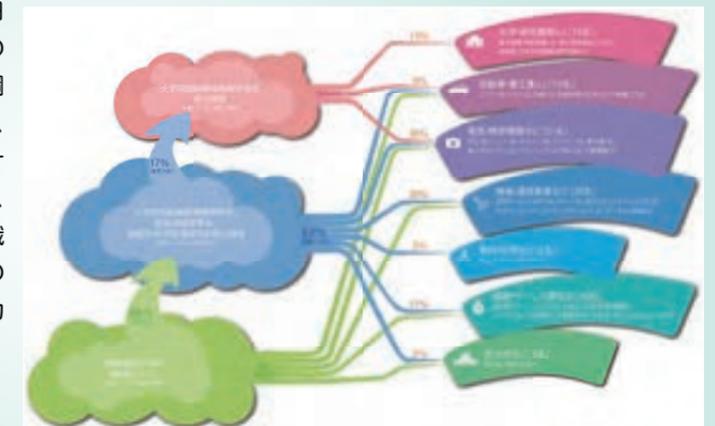
3年 A1A2

限	月	火	水	木	金
1限	環境エネルギーシステム 神経と脳	電気工学通論第二	機械分子工学第二	パターン情報学	生産プロセスの設計
2限	生体機械工学 ロボットシステム	有限要素法 ロボットインテリジェンス	機械系数理学	機械材料学 ロボットコントロール	機械力学第二
3限	知能ソフトウェア演習 ロボットシステム演習	産業総論 数理手法 III		メカトロニクス設計演習	メカトロニクス設計演習
4限	知能ソフトウェア演習 ロボットシステム演習		機械工学少人数ゼミ 機械工学英語演習	メカトロニクス設計演習	メカトロニクス設計演習
5限		数理手法 VI			

卒業後の進路情報

機械情報工学科を卒業したら、どんな進路があるの?

1874年の創立以来、機械系の卒業生は、日本の産業界の発展を支え続けています。その進路は、自動車、航空機、重機、電機、鉄鋼からAI、ロボット、VR、情報・通信、半導体、バイオテクノロジーなどへと時代の要請を受けながら広がっています。機械情報工学科では、企業と大学の長年の相互信頼関係の下、就職の学科推薦制度があり、学科が志望企業への就職を仲介することで、学生の就職活動を協力に支援しています。



先輩からのメッセージ

ロボットと共生する社会をめざして

高齢者福祉分野で活躍するAIロボットの実装を目的として、人間の状態推定や、適応的な言動生成ができるヒューマンロボットインタラクションの研究をしています。そのために、深層学習アーキテクチャを設計し、ロボットとのインタラクション中の映像や会話内容を用いた推定システムを実装しています。この研究を通じて、知的ロボットと人間との長期的な関係構築を実現し、高齢者福祉のICT化における諸問題を解決していきたいと考えています。



高齢者福祉で活躍するコミュニケーションロボット

多様な授業・演習で、幅広い視野を獲得

機械情報工学科の講義では、四力学、制御といった機械工学や、情報科学、ロボティクス、機械学習、神経科学など、ハードウェアとソフトウェアの両方を学ぶことができます。また、演習ではスターリングエンジンの設計から製作までに挑戦し、仲間と試行錯誤しながら1つの作品を作り上げます。演習の集大成として、これまで学んできたことを用いた自分のオリジナル作品を発表し、物作りの醍醐味を味わうことができます。さらに、授業の一環として、大企業からベンチャーまで幅広い企業から自分の興味のある企業を選択し、就業体験する機会も用意されています。



演習で共同製作をした同期とは今でも切磋琢磨する仲間です

中川聡 (2018年卒業 情報理工学系研究科 博士後期課程2年)



未開拓技術の宝庫である航空宇宙工学

先端的技術・システム統合化技術の創成と教育研究に取り組んでいます

TEL : 03-5841-6610 FAX : 03-5841-8560

E-mail : info@aerospace.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

航空宇宙工学の理念

未開拓技術の宝庫であり、産業として大きな発展の可能性を持つ航空宇宙工学

技術・利用面で未成熟であり、将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸のためにそれらを積極的に活用していきます。

他分野へスピンオフできる先端的技術を創成する航空宇宙工学

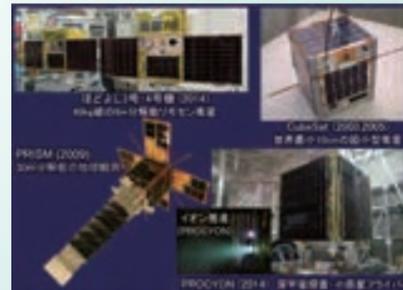
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究教育を行なうことにより、他分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指します。

システム統合化技術の象徴としての航空宇宙工学

航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が要求されます。その特質を活かし、航空宇宙のミッションを題材として、システムインテグレーション、マネジメントの研究教育を行います。



学生による親子式宇宙旅客機のデザイン



大学による超小型衛星／深宇宙探査への挑戦

カリキュラム紹介

航空宇宙を教育のための統一的な題材に採りつつ、広く技術者および研究者としての基礎教育を行なうことを目的としています。

技術のピラミッドの一つを把握することこそが、新しい技術を開拓しようとする者への基礎教育として最も効果的な方法であると考えています。

特色

1. 専門分野と関連分野の総合的習得
3年次夏：航空宇宙システム/航空宇宙推進の2コースへ振り分け
大学院：A(空気力学)/B(構造材料)/C(飛行力学制御)/D(推進)の各コース
2. 高度な分析能力と創造的な統合能力の育成
見学旅行、卒業研究 + 卒業設計
3. 幅広い教育組織体制
本郷(工学系研究科)、駒場(先端学際)、柏(新領域)、相模原(JAXA宇宙科学研究本部)
4. 学生のものづくり活動支援
超小型人工衛星、革新的飛行ロボット



卒業設計での作品例：超大型全翼式旅客機



卒業設計(ジェットエンジン)での指導のひとこま

3年生の時間割例

3年 SIS2

	月	火	水	木	金
1限	航空宇宙自動制御第一	航空宇宙情報システム第二		空気力学第二A(S1) 空気力学第二B(S2)	基礎振動論
2限	ジェットエンジン	航空機力学第二	数学2B		弾性力学第一
3限	航空宇宙材料	宇宙工学演習		航空宇宙推進学第二	航空宇宙学基礎設計(隔週)
4限	航空機構造力学第一		航空宇宙学製図第二	航空宇宙学製図第二	
5限				航空宇宙学倫理	航空宇宙学製図第二

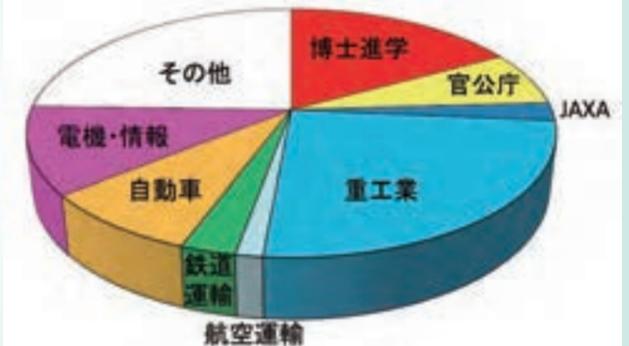
夏期休暇中の集中講義：航空技術イノベーション概論、航空宇宙学実地演習

3年 A1A2

	月	火	水	木	金
1限	航空宇宙自動制御第二	電気工学通論第二	空気力学第三	宇宙工学通論	弾性力学第二
2限	宇宙軌道力学	数値構造解析(A1) 構造振動論(A2)	ガスタービン第一	航空機構造力学第二	航空機設計法第一
3限	電気工学実験大要B	航空宇宙情報システム第三	航空機力学第三	宇宙推進工学第一	航空宇宙推進学演習
4限		航空宇宙推進学第三	航空宇宙推進学第四	航空宇宙システム学実験	航空宇宙システム学製図
5限		空気力学第二C(A1) 空気力学第二D(A2)	宇宙制御工学	ガスタービン第二	航空宇宙推進学実験 航空宇宙推進学製図

卒業後の進路情報

総合工学である航空宇宙工学を学んだ学科/専攻の卒業生は、航空宇宙以外の分野の技術者、研究者としても活躍できる能力を備えています。事実、航空宇宙に関する製造業や研究機関、官庁だけでなく、自動車、エネルギー、情報通信など、他の分野で優れた業績をあげている人も少なくありません。これは航空宇宙工学科/専攻での学習を通じて得た工学上の特技を活かし、当該分野プロパーの技術者とは違った発想から問題に取り組むからです。ここ数年間の学部および修士卒業生の進路は学科ホームページに示されています。卒業生のうち、多数が大学院に進学しますが、修士修了後の就職については“修士または学士”という形で求人を出している会社が多いため、就職の分野も機会も学部卒業生と変わるところがないと言えます。



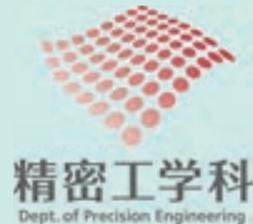
※2013~2016年の修士課程修了者の進路データ
※学部卒業生56名中、例年2名程度が就職、他は主として進学

先輩からひとこと!

航空宇宙工学科は天空への夢を持った方々を歓迎します。進学すると、3年前半までは幅広い分野を、後半から、“航空宇宙システム学”と“航空宇宙推進学”に分かれて勉強します。4年では、卒業論文の後、卒業設計において、「航空機」、「エンジン」、「人工衛星」のいずれかを選択します。教室での講義や実験、設計だけではなく、3年終わりの春休みには、航空宇宙メーカー、種子島の宇宙センターや内之浦ロケット打上げ場などへの見学もあります。航空宇宙工学の現場を知ることによってさらに理解を深め、夢を大きくしていくことでしょう。また、海外の学会等で自分の研究成果を発表し、活躍する学生もたくさんいます。



NASA主催学生航空機設計コンテストで国際部門第1位を受賞した環境適合型水素超音速旅客機(2009)



『ロボテック』と『プロテック』で社会をデザイン

TEL : 03-5841-6445 FAX : 03-5841-8556

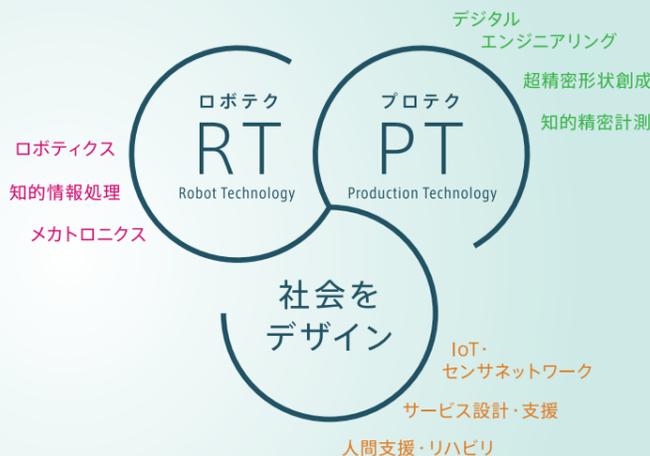
E-mail : soudankai@pe.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

精密工学は、精密情報機器・ロボティクス・生産技術といった「産業基盤を支える先端テクノロジー」を対象として発展してきた工学領域です。今日では、それらに加えて「人間と機械との融合・共生」が重要なテーマとなっており、医用工学・健康科学といった「生体」「環境」関連との分野や、サービス工学のように社会との関わりを扱う分野まで、幅広く裾野を広げながら、人と人工物(機械)の未来をデザインする創造的な研究が進められています。

すなわち、本学科では、ロボテック(RT: Robot Technology)とプロテック(PT: Production Technology)をベースとして、人・人工物・環境のより良い未来を創造するために必要な先端領域の教育を行います。また、単に知識・学力の向上だけでなく、プロジェクトやインターンシップなどの実習・演習を通じて、自ら能動的に問題設定を行い解決する能力の向上を図ります。



ひろがる精密工学科のフィールド

3年生の時間割例

3年 S1S2

限	月	火	水	木	金
1限		画像処理工学	精密加工Ⅰ 精密計測Ⅰ	精密数値Ⅱ	設計学 ライフサイクル工学
2限		数値計画と最適化Ⅰ	数学2F	センサ工学 数値計画と最適化Ⅰ	
3限	精密工学実践演習	制御工学Ⅰ		プログラミング応用Ⅰ,Ⅱ	電子回路工学 数値演習2C
4限		材料工学Ⅱ	材料力学		生体生命概論
5限					
6限			精密環境学	精密工学倫理	

3年 A1A2

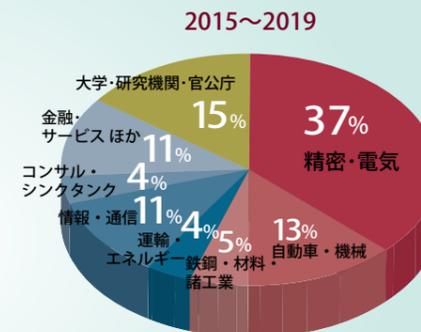
限	月	火	水	木	金
1限	人工物工学	光工学	制御工学Ⅱ	数値計画と最適化2	先端加工学 弾性振動学
2限	サステナブルマニファクチャリング 生産システム管理	精密機構学			
3限	精密工学特別講義		生体工学		精密加工Ⅱ ロボット工学
4限	マイクロナノ加工学	シミュレーション演習	精密計測工学Ⅱ	精密工学論議	アクチュエータ工学
5限					

卒業後の進路情報

幅広い分野への就職実績を誇る精密工学科

進路には豊富な選択肢があります

卒業生の大半は、大学院に進学した後に就職します。精密工学科では材料、加工から機械、電気、システムまで学ぶため、幅広い分野に就職実績があります。精密・電機、自動車・機械関連のメーカーを中心に、近年は情報・通信、シンクタンク・コンサルタントや金融業界からの求人も増えています。また、博士課程に進学した学生の多くは大学・公的機関の研究職に就いています。



主な就職先
ファナック、日立製作所、三菱電機、新日鐵住金、三菱重工、富士フイルム、JR東日本、日本アイ・ピー・エム など

カリキュラム紹介

エンジニアとしての礎を築く、充実のカリキュラム

材料、加工から機械、電気、システムまで工学の基礎を幅広く学びます

精密工学科のカリキュラムは、機械物理・情報数値・計測制御の「基礎工学」を土台に、「精密工学」の柱であるメカトロニクス・設計情報・生産の3分野を中心として構成されています。さらに、先端技術の研究現場で役立つ実践力と課題探求力を身につけるプロジェクトやインターンシップ、国際的な舞台上で活躍するための英語力を身につける英語プレゼンテーション演習など、豊富な実習・演習も用意されています。



プロジェクト授業の様子



ロボット実習



少人数グループでの協調作業

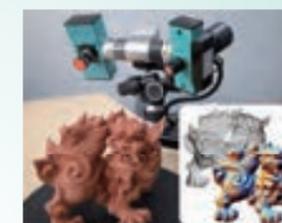
精密工学科の特長

社会で役立つ実践力を鍛える!

カリキュラムには、少人数のグループで様々なテーマに取り組むプロジェクト演習が用意されています。これにより、主体的に問題設定し、解決法を考え、さまざまな装置を動かしてみることで、講義や教科書だけでは得られない実践力を身につけることができます。同時にグループでの研究の進め方、メンバーのまとめ方といったプロジェクトマネジメントのノウハウや、プレゼンテーション能力も磨きます。

また、インターンシップでは企業の工場や研究所で実習を行い、研究開発の進め方を学びます。学内ではなかなか触れることのできない実社会の研究開発現場を知ることが、その後の人生にも役立つ貴重な体験となります。

4年生からは、それまでに修得した基礎知識や経験をもとにして、卒業論文研究に取り組みます。世界最先端技術に関する研究テーマにチャレンジすることで、社会に出てから必要となる応用力を身につけることができます。



3Dスキャニング技術による実物形状のデジタル化



原発事故対応ロボット



「計算知能×コミュニケーション×メディアデザイン」 情報を極め、物理世界を変容させる

TEL: 03-5841-6711 FAX: 03-5841-6702
E-mail: eejim@ee.t.u-tokyo.ac.jp
URL: http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/

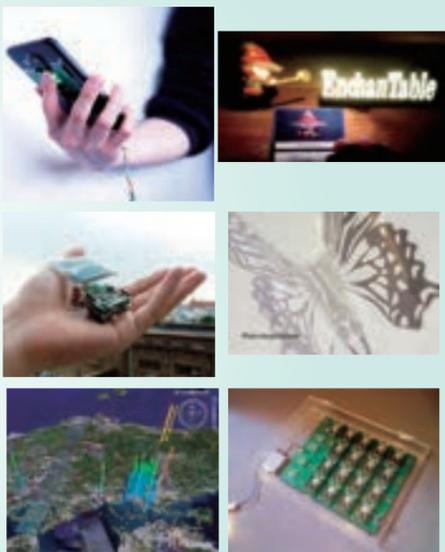
学科の紹介

社会や文化に変革をもたらす、新しい時代を切り拓く電子情報工学

電子情報工学科では、コンピューティング技術・情報通信技術・メディアコンテンツ技術を、その根幹からソフトとハードの両面で体系的に学ぶことができます。計算知能・コミュニケーション・メディアデザインという分野を包含しているため、産業や社会の変容に大きな影響力を有している点に特徴があり、日々の生活を一変させる新たな社会文化や新産業を創出してきました。

本学科が対象とする情報通信産業（人工知能、インターネット、VR、ソーシャルなど）は、わが国最大の産業であり、実質 GDP 成長の約 1/3 を牽引しています。斬新なサービス創出とともに、地球規模で解決しなければならない環境や都市などの諸課題を「スマート」に解決することを目指しています。

本学科は、電気電子工学科と緊密に連携しており、情報を極め、物理世界を変容させる研究開発に貢献できる人材を育成しています。



カリキュラム紹介

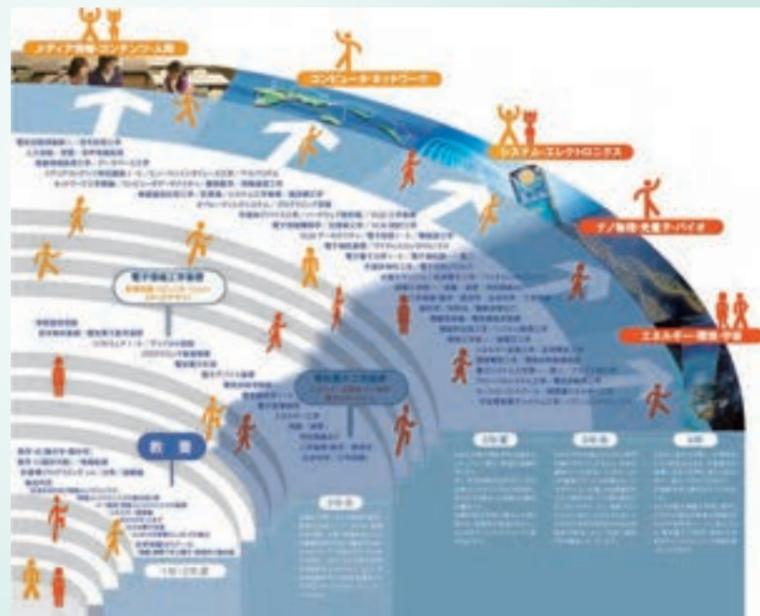
現代社会の中核を担う科学技術の基礎から最先端テクノロジーまで、「情報」を基盤にした教育を行います

広範な基礎学問を学び、先端技術を担う世界のリーダーを育てるために、「目に見えない電子・情報の世界をデザインし、制御する」「広範な知識を統合し、これまでにないアイデアを創る」「興味ある分野、得意分野を見つけとことん伸ばす」ことなどを教育の理念に掲げています。

具体的には、3年 S1S2 までは、電気電子工学科とも共通性の高い基礎科目を履修します。実験・演習を通じてアルゴリズムやプログラミングを基礎から学びます。3年 A1A2 からは、より専門的な履修プランを以下の 3 つから自由選択して学びます。

- A1: メディア情報・コンテンツ・人間
- A2: コンピュータ・ネットワーク
- AS: システムエレクトロニクス

4年生からは卒業生として各研究室に配属されますが、電子情報工学科だけでなく電気電子工学科の研究室を希望することも可能です。学びながら自ら選択し、時代の変化に適應できる応用力を養います。



3年生の時間割例

3年 S1S2

	月	火	水	木	金
1限	制御工学第一	コンピュータアーキテクチャ	半導体デバイス工学	ネットワーク工学概論	電子回路 I
2限	統計的機械学習	信号処理工学	数学 2 G	電気回路理論第二	ハードウェア設計論
3限	実験演習第一	実験演習第一	アルゴリズム	実験演習第一	(工場見学)
4限			電磁波工学		
5限					

3年 A1A2

	月	火	水	木	金
1限	計算論	オペレーティングシステム	無線通信応用工学	情報通信工学	言語・音声情報処理
2限	映像メディア工学	人工知能	ヒューマンコンピュータ工学	光電子デバイス	電子回路 II
3限	VLSI 工学基礎	光電子デバイス	量子力学 I	分散システム	電子情報機器学
4限	実験演習第二	実験演習第二	数理手法 III	実験演習第二	電子物性第一
5限					メディアコンテンツ特別講義 II

卒業後の進路情報

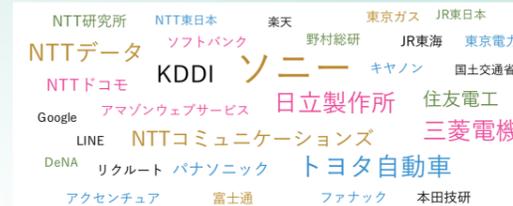
電子情報工学科と電気電子工学科では、約 4000 名の卒業生があらゆる分野で活躍しています。

直近 5 年間で就職した人数の多かった企業を図にまとめました。図の文字の大きさが就職した人数に対応しています。最も多いところは 5 年で 30 名が就職しました。

電機メーカーや情報通信キャリア、自動車メーカーなど就職人気企業の上位を網羅している一方、Google やアマゾンウェブサービス、LINE、楽天などへの就職も増えてきました。

近年の就職の特徴的な点は「多様化」です。上図に掲載していない「直近 5 年の就職者が 4 名以下」の企業に就職した人が卒業生の半数を占めるようになりました。中央官庁や地方自治体、マスコミや、金融、そしてスタートアップ企業など自分の専門性を追求したり、昔からの夢を叶えるための自分なりの進路を選択する人が増えました。

アカデミック分野では学部卒業後に 8~9 割程度が大学院修士課程へと進学し、さらにその 1~2 割程度が博士課程へと進学しています。そしてその約半数が大学や研究機関で就職し、世界的な活躍をしています。



電子情報工学科の特長

計算知能からメディアデザインまであらゆる情報分野で世界をリードしています。

社会と密接な関係を有する電子情報工学科の研究成果は、しばしばテレビや新聞などのメディアで取り上げられています。ニュースはもちろんのこと、NHK 総合「爆笑問題のニッポンの教養」や日本テレビ「世界一受けたい授業」などでも紹介されました。最近話題の人工知能技術に関しては、多くのプラットフォームで市販化されたコンピュータ将棋システム「激指」や、史上初めて人間のトップクラスに匹敵するレベルに到達したコンピュータ麻雀システム「爆打」などが電子情報工学科の研究室から生まれています。また、企業の社外取締役を務める教員が複数あり、地に足のついた研究教育を進めています。

一方、政府の各種委員として、我が国の未来を政策的に担う立場でも活躍をしている教員も複数います。学内では、東大グリーン ICT プロジェクトの代表や、学外では電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、日本バーチャリアリティ学会、人工知能学会などの学会会長を輩出するなど、常に各分野の先導的な役割を果たしてきました。

学生の声：「情報系でありながらスマホや電子機器のハードまで頭に入る。リベラルアーツ好きな情報系には最適です。」



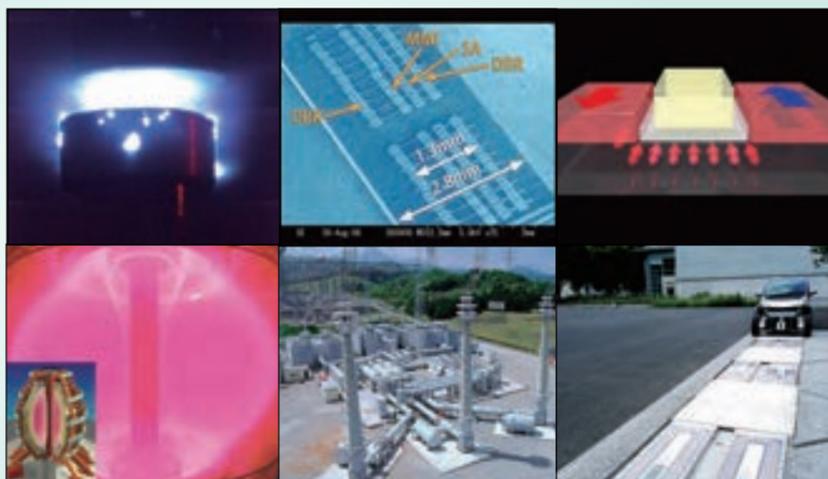
「エネルギー・電気自動車×AI・IoTデバイス×光量子エレクトロニクス」
物理を極め、情報社会に変革をもたらす

TEL : 03-5841-6711 FAX : 03-5841-6702
E-mail : eejim@ee.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

情報・電気・電子を柱としたエレクトロニクス技術は、社会・文化レベルで多くの変革をもたらしてきました。今後も次世代技術が次々生み出され、新しい時代が切り開かれていきます。

本学科では、電子情報工学科と緊密に連携しており、物理を極め、情報社会に変革をもたらす研究開発に貢献できる人材を育成しています。



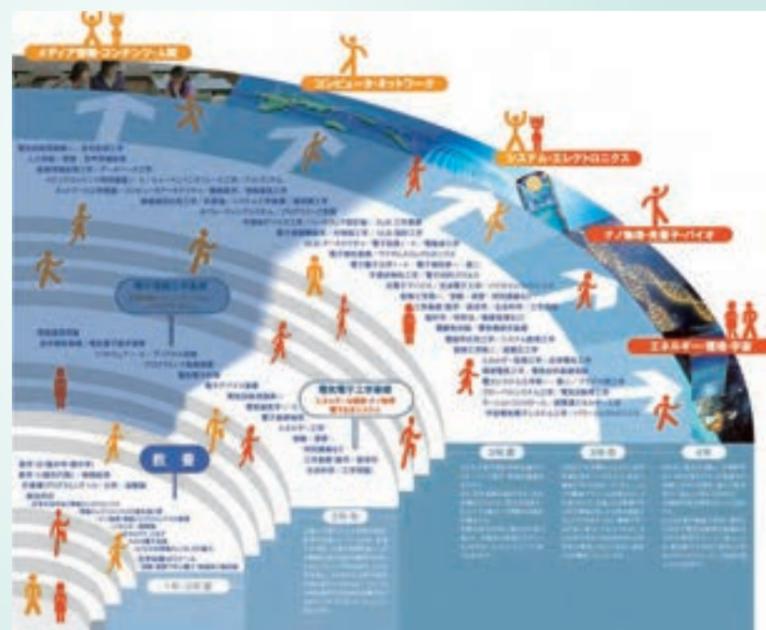
カリキュラム紹介

現代社会の中核を担う科学技術の基礎から最先端テクノロジーまで、「物理」を基盤にした教育を行う『電気電子工学』

電気電子工学科は、システム・エレクトロニクス、ナノ物理・光量子・バイオ、エネルギー・環境・宇宙といった広範な先端テクノロジーを学び、次世代の科学技術、産業基盤を支える人材を育成します。特に、新しいカリキュラムで、世界をリードする最先端研究に接しながら、次世代技術を切り拓く知識、時代の変化に適応できる応用力を養います。

広範な基礎学問を学び、先端テクノロジーを開発する世界のリーダーを育てるため、以下の三つをキーワードにしています。

- 目に見えない電子・情報の世界をデザインし、制御する
- 広範な知識を統合し、これまでにないアイデアを創る
- 興味ある分野、得意分野を見つけるところ伸ばす



3年生の時間割例

3年 S1S2

月	火	水	木	金
1限	制御工学第一 電力システム工学第一 コンピュータアーキテクチャ	半導体デバイス工学	電離気体論 ネットワーク工学概論	電子回路 I
2限	統計的機械学習 電子物性基礎	数学 2 D.G	電気回路理論第二	ハードウェア設計論
3限	実験演習第一 実験演習第一		実験演習第一	(工場見学)
4限		電磁波工学		
5限				

3年 A1A2

月	火	水	木	金	
1限	制御工学第二 計算論	電磁界応用工学	無線通信応用工学 プラズマ理工学	情報通信工学 高電圧工学	電子回路 II
2限	VLSI 工学基礎 エネルギー変換工学	光電子デバイス 電力システム工学第二	量子力学 I システム数理工学	光電子工学 I パワーエレクトロニクス	電子情報機器学
3限	実験演習第二 実験演習第二		数理手法 III	実験演習第二	電子物性第一
4限					電気機器 CAD 演習
5限					

卒業後の進路情報

電子情報工学科と電気電子工学科では、約 4000 名の卒業生があらゆる分野で活躍しています。

直近 5 年間で就職した人数の多かった企業を図にまとめました。図の文字の大きさが就職した人数に対応しています。最も多いところは 5 年で 30 名が就職しました。

電機メーカーや情報通信キャリア、自動車メーカーなど就職人気企業の上位を網羅している一方、Google やアマゾンウェブサービス、LINE、楽天などへの就職も増えてきました。

近年の就職の特徴的な点は「多様化」です。上図に掲載していない「直近 5 年の就職者が 4 名以下」の企業に就職した人が卒業生の半数を占めるようになりました。中央官庁や地方自治体、マスコミや、金融、そしてスタートアップ企業など自分の専門性を追求したり、昔からの夢を叶えるための自分なりの進路を選択する人が増えました。

アカデミック分野では学部卒業後に 8~9 割程度が大学院修士課程へと進学し、さらにその 1~2 割程度が博士課程へと進学しています。そしてその約半数が大学や研究機関で就職し、世界的な活躍をしています。



電気電子工学科の特長

AI から宇宙開発まであらゆる分野で世界をリードしています。

本学科の研究成果は Nature 系雑誌など世界トップレベルの国際ジャーナルや国際会議で多数発表しています。小惑星探査機「はやぶさ 2」や国際宇宙ステーションの開発・運用など、宇宙開発の様々な分野で本学科・電気系工学専攻の教員・院生・卒業生が活躍しています。

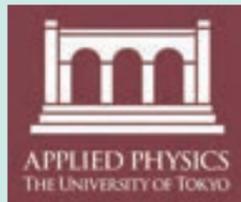
電気エネルギー輸送の大容量化、高効率化を可能とする世界最高 110 万ボルト送電技術の世界標準化は本学科の教員が取りまとめたものです。2018年に電気系教員の主導で新世代の集積回路「AIチップ研究拠点」が設立されました(VDEC)。本学科在学生・院生を中心に電気自動車 (EV) の走行中給電や、再生可能エネルギーの大量導入に備え EV のバッテリーを活用したスマートグリッド、超電導モーターや制御技術をいかした電動化航空機の研究開発など多くの挑戦をしています。

本学科は、修士博士一貫のリーディング大学院の複数の拠点で中心的役割を果たしており、世界最高レベルの研究教育に貢献しています。

学生や教員が文部科学大臣賞など数多くの賞を毎年受賞しています。

学生の声：
「ここまで電気電子と電子情報の授業が共通しているとは思わなかった。」
「電気電子と電子情報は、研究室の配属に関しても横断的だということ、学科に入って知りました。」





科学の源流から工学の奔流へ

志と夢をもつ人々が集う

21世紀のサイエンスフロンティア

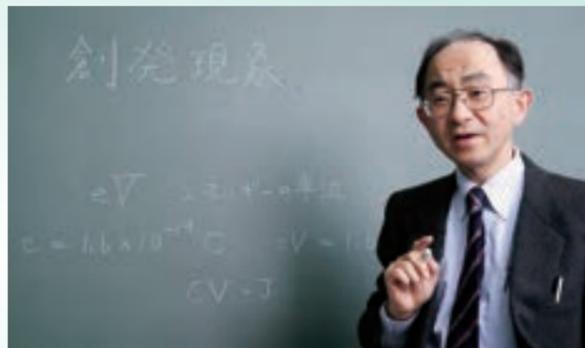
TEL : 03-5841-6800 FAX : 03-5841-6803

E-mail : office@ap.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.ap.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

科学の進歩とテクノロジーの発展は互いに絡み合いながら車の両輪のように私たちの生活を支えています。量子力学の発見・半導体科学の進展・エレクトロニクスの隆盛など、多くの歴史的事例がそれを証明しています。物理工学科は、物理学の源流を探り科学の真理を求めると同時に、21世紀を支える新たなテクノロジーを生み出す学問領域です。物理工学科では、世界最先端の科学と工学の研究活動により、科学技術の奔流を生み出し、そして未来の科学技術を支える人材を育てることを目指しています。



物理工学科では、数学と物理学の基礎を十分に学ぶことが重要だと考えています。それは卒業後のあらゆる場面で応用できる基礎力をつけるためです。その後、最先端の実験物理学、理論・計算物理学の手法を学ぶことにより、皆さんが創造性に富んだ柔軟思考の、世界をリードする人材に育つことを手助けします。

3年生の時間割例

3年 S1S2

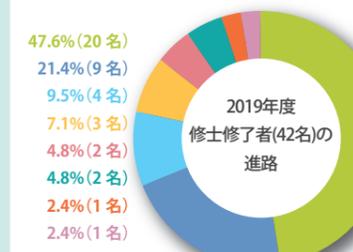
	月	火	水	木	金
1限	回路学第一	統計力学第一	情報工学概論 (インターネット工学)	固体物理第一	信号処理論第一
2限	電磁気学第二	量子力学第二	数学2D	制御論第一	確率数理工学
3限	物理学実験法			物理学演習第一	物理実験の基礎第一
4限	物理学実験法				数学2D (演習)
5限	物理学基礎演習	数理解法VII		物理学特講第一	

3年 A1A2

	月	火	水	木	金
1限		情報理論	数学3	光学	ナノ科学
2限		量子力学第三	数学演習	固体物理第二	信号処理論第二
3限	物理学実験法	統計力学第二	応用統計学		量子物理学
4限	物理学実験法	物理実験の基礎第二	量子エレクトロニクス	物理学演習第二	分子エレクトロニクス
5限		数理解法VI	数理解法II		

卒業後の進路情報

学部卒業生の大半は大学院の修士課程に進学し、修士修了者の3~4割程度は博士課程に進みます。



- 進学**: 東京大学大学院工学系研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、理学系研究科、総合文化研究科、など
- 電機**: 日立、東芝、NEC、富士電機、富士通、パナソニック、三菱電機、ソニー、シャープ、明電舎、沖電気、安川電機、日本IBM、ルネサス、横河電機、ローム、村田製作所、富士ゼロックス、オリンパス、島津製作所、浜松ホトニクス、日置電機、東芝電子デバイス、サインエレクトロニクス、など
- 機械・精密**: 任天堂、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、三菱重工、マツダ、本田技研、コマツ、ニコン、フナツク、リコー、富士ゼロックス、オリンパス、島津製作所、浜松ホトニクス、プラザー工業、GEヘルスケア、京セラ、コニカミノルタ、ダイキン、セイコーエプソン、など
- 化学工業・石油**: 旭化成、昭和電工、IX日航石油エネルギー、プリズトム、三菱化学、東レ、住友化学、凸版印刷、クレハ、クラレ、旭硝子、住友化学、信越化学、富士フイルム、など
- 鉄鋼・金属**: 新日鐵住金、JFEスチール、IHI、住友電工、古河電工、フジクラ、など
- 電力・原子力/運輸・通信**: JR東海、JR東日本、NTTデータ、NTT東日本、NTT研究所、NHK技研、TBSテレビ、NTTドコモ、など
- IT・コンサル・金融・商社**: 新日鐵住金ソリューションズ、アクセンチュア、エリシオン、ドイツ銀行、日本銀行、ゴールドマンサックス、三井物産、住友信託銀行、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、ソフトバンク、野村総研、ユー・エス・イー、ヤフー、チームラボ、博報堂、楽天、コーポレートディレクション、マッキンゼー・アンド・カンパニー、など
- 大学・研究所・官公庁**: 東京大、京大、阪大、東北大、名古屋大、東工大、早大、学習院大、マサチューセッツ工科大、コネル大、ニューサウスウェールズ大、インスブルック大、エコール・ポリテクニク、理化学研究所、産業技術総合研究所、物質材料研究機構、自然科学研究機構、情報通信研究機構、JAXA、特許庁、経済産業省、など
- その他**: 進学準備など

カリキュラム紹介

基礎と応用の融合

既存の物理学や工学の枠に囚われない新しい学問領域や産業を開拓することが物理工学科の目指すところです。そのために、次の6本の柱からなるカリキュラムを用意しています。「基礎数学」、「基礎物理学・先端物理学」、「数学及び物理学基礎演習」、「応用物理学・応用数理学」、「論議」、そして「実験研究」です。物理学そのものを極めたい皆さんも、応用を積極的に目指したい皆さんも、当学科では等しく歓迎されます。異なる視野を持つ一方で物理学という学問を共に楽しめる皆さんが出会い、私達が用意したカリキュラムを通して相互作用することで、既存の物理学や工学の枠に捕らわれない新しい学問や産業を開拓する気運が生まれると考えています。

カリキュラムの流れ	2年 A1・A2	3年 S1・S2	3年 A1・A2	4年 S1・S2	4年 A1・A2
基礎数学	数学1D	数学2D	数学3		
	物理数学				
	基礎数理				
基礎物理学 先端物理学	量子力学第一	量子力学第二	量子力学第三		
	電磁気学第一	電磁気学第二	光学		
	統計熱力学	統計力学第一	統計力学第二	統計力学第三	
	物質科学入門	固体物理第一	固体物理第二	固体物理第三	固体物理第四
		物理実験の基礎第一	物理実験の基礎第二		
			ナノ科学	現代物質構造論	
			量子物理学	量子情報	
			量子エレクトロニクス	連続体の力学	
			分子エレクトロニクス	ソフトマター物理	
				表面物理	
数学及物理学 演習	数学及力学演習I		数学演習		
		物理学基礎演習	物理学演習第二		
応用物理学 応用数理学	回路とシステムの基礎	回路学第一			
	数値解析	信号処理論第一/確率数理工学	信号処理論第二		
	最適化手法	情報工学概論 (インターネット工学)	情報理論		
	計測論C	制御論第一			
論議		物理学特講第一		物理学特講第二	物理学特講第三
				物理学特別論議	
実験・研究		物理学実験法	物理学実験第一	物理学実験第二 (卒業研究)	

在校生の声

物理工学科を選んだ動機は？

◆A: 最初は漠然と物理系かなと考えて、僕はサークルがものづくり系なので、理学部より工学部の方が合うかな、と。

◆B: 物理っていろいろな分野の基礎になるから、自分が本当にやりたいことが見つかった時、物理ならどこでも通用するだろうと思いました。

◆C: 私も同じ。物工なら基礎が学べて、他の分野にも進める。学んでいるうちに少しずつ興味が物性物理の方に向いてきたところです。

◆D: 僕は進振り前にオープンキャンパスで理物と物工を比べてみましたが、物工は学科内の雰囲気が良かったです。先生方も気さくだし先輩もすごく面白かった。研究内容もかなり調べましたが、素粒子とか原子核物理とかある中で、僕は物工の物性物理学にいちばん興味が持てました。

◆E: 私は理科2類だったけれど工学部にも進めると知って、理物と物工を調べていくうちに、古澤先生が研究されているような光量子系が面白そうな気がして。あとの細かいことは進学してから考えればいいかって。





科学技術の基幹たる「普遍的な原理・方法論」を目指して！

数学・物理・情報の諸概念をベースとして、個別分野に依存しない科学技術の根幹となる普遍的な概念や原理の提案、および系統的な方法論の提供をめざしています。

TEL : 03-5841-6888 FAX : 03-5841-6886
E-mail : office@office.keisu.t.u-tokyo.ac.jp
URL : https://www.keisu.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

計数工学科の目指すところは、次世代の科学技術の創出に向けた「普遍的な原理・方法論」の構築です。特に、情報の概念や情報技術をベースとして、個別分野に依存しない科学技術の基幹となる普遍的な概念や原理の提案および系統的な方法論の提供を目指しています。学科には、「数理情報工学コース」と「システム情報工学コース」という互いに相補的な関係にある2つのコースが用意されています。数理情報工学コースは単なる数学とは異なり、人間や環境を含むあらゆる物理システムや社会システムを対象として、それらに現れる諸問題を数理的アプローチで解決する方法論の構築を目的としています。一方、システム情報工学コースは単なる情報とは異なり、実世界を強く意識し、物理世界と情報世界とを繋ぐ「認識と行動」に関する研究を行っています。教育のモットーは「基礎を深く、視野を広く」であり、創造性に富み適応能力の高いチャレンジ精神を持った学生の育成を目指しています。



3年生の時間割例

3年 S1S2						3年 A1A2					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1限	回路学第一	統計力学第一	代数数理工学	解析数理工学	信号処理論第一	1限	算数数理工学	情報理論	数学3	光学	幾何数理工学 ナノ科学
2限	電磁気学第二	量子力学第二 システム情報工学演習第一	数学2D	制御論第一	確率数理工学	2限	制御論第二	画像処理論	数学演習	数理計画法	信号処理論第二
3限	数理情報工学演習第一-A システム情報工学設計演習	認識行動システム論第一	数理情報工学演習第一-A システム情報工学設計演習	計数工学実験	計算システム論第一	3限	数理情報工学演習第一-B 数理情報工学実験第一 システム情報工学実験第一	統計力学第二 システム情報工学演習第二	応用統計学	数理情報工学演習第一-B 数理情報工学実験第一 システム情報工学実験第一	数理情報工学特論第三(A1) 数理情報工学特論第四(A2) センサ・アクチュエータ工学
4限	数理情報工学演習第一-A システム情報工学設計演習	計数工学プログラミング演習[S1] 数理情報工学演習第一-C[S2] システム情報工学設計演習[S2]	数理情報工学演習第一-A システム情報工学設計演習	計数工学実験	数学2D	4限	数理情報工学演習第一-B 数理情報工学実験第一 システム情報工学実験第一	回路学第二	脳科学入門	数理情報工学演習第一-B 数理情報工学実験第一 システム情報工学実験第一	
5限	経済工学I	計数工学プログラミング演習[S1] 数理情報工学演習第一-C[S2] システム情報工学設計演習[S2]				5限	経済工学II	数理解法IV	数理解法II		

卒業後の進路情報

システム情報工学コース卒業生は、大学、研究機関のほか、電機工業、機械工業、鉄鋼工業、化学工業などあらゆる産業分野において研究、開発、設計などの業務に従事しています。対象も、計測機器、制御システム、計算機のハードウェアとソフトウェア、ロボット、医用診断システム、音声・文字認識システムなど多岐にわたり、大規模工場の生産自動化システムや生産情報管理システムの分野でも中心的な役割を果たしています。

数理情報工学コースの卒業生は、大学、研究機関のほか、あらゆる企業で各種の業務に従事していますが、最近の卒業生は、情報通信系における計算機システムの開発および運用；鉄鋼、化学、機械、建設工業などにおける生産システムの設計と管理；諸産業、銀行、行政官庁などにおけるオペレーションズ・リサーチや情報システムの設計・管理などに従事しているものも多くなっています。



在校生からのメッセージ

Q：計数工学科を選んだ理由を教えてください。
A：もともと数学が好きで、数学の理論にも応用にも興味がありました。学科を選ぶ段階ではまだ具体的に学びたい事がわからなかったのですが、計数工学では研究室ごとに様々なテーマを持って幅広く数学を扱っていることを知り、計数工学科への進学を決めました。

(数理情報工学コース3年 孫銘沢)

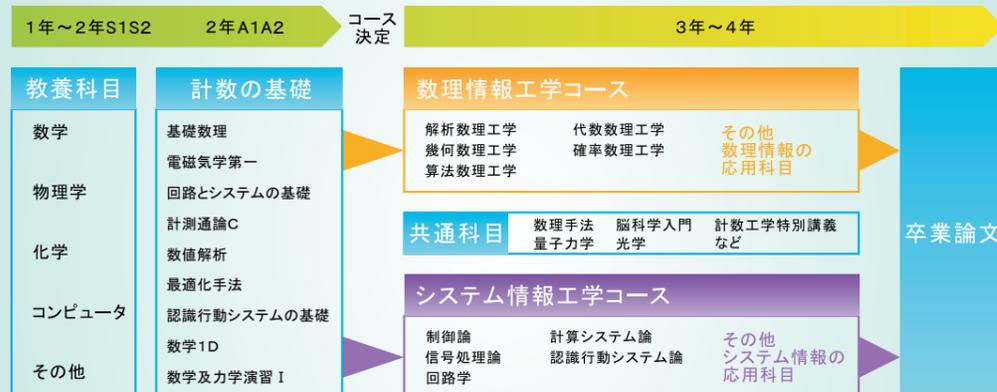
Q：計数工学科に進学して良かったことは何ですか？
A：一つは多くの研究室に学部生のうちに配属される仕組みです。計数工学科では4年のSセメスターに異なる二つの研究室に配属され、Aセメスターでは卒研配属が行われます。卒論に取り組む期間は比較的短くなりますが、そのかわりに、一年かけて分野横断的に各研究室それぞれの最前線に触れることができるのは非常に魅力的だなと現在進行形で感じています。また、計数工学科では2、3年次に基礎分野をきちんと学ぶカリキュラムが組み立てられており、そこで学んだ基礎的な理論が応用分野の学びへの足掛かりとなることが多々あります。こうした点を実感できるのも計数工学科に入って良かった点だと思います。

(システム情報工学コース4年 山崎雄輔)

カリキュラム紹介

基礎を深く、視野を広く

計数工学科では数理と物理のしっかりした基礎の上に、あらゆる工学システムの解析と構成を高いレベルで行うことのできる人材を養成しています。自分の頭で考え、自分の手を動かし、自分の言葉で説明することにより、理解を深めるようカリキュラムが構成されています。



最先端の環境で独自のテーマの探求を



カオスシステム実験 光学・センサ工学実験 Rによるグラフィカルモデリング 音響工学実験



「統合の工学が未来を切り拓く」

すべての工学に通じるマテリアルを基盤に、
様々な分野で新たな地平を拓いていきます

TEL : 03-5841-7090 FAX : 03-5841-8653

E-mail : qa@material.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/



学科の紹介

可能性を広げる3つのコース

マテリアル工学は、文明社会の基礎となるマテリアル全般を研究対象とした、すべての工学の基礎となる分野です。マテリアル工学科では、志望分野とカリキュラムの関係を明確にし、学生の皆さんが自分の将来をとらえやすいようにコース制を導入しています。すでに志望分野のある人には進むべき道がより具体的に、志望分野がまだ決まらない人には最適な選択の手助けになるはずです。マテリアル工学科の3つのコースは、互いに連携して幅広い見識を養うための教育を実践し、最先端の研究を進めています。MITやケンブリッジ大学などの世界トップレベルの大学との教育・研究ネットワークを活かし、活躍の場を国際的に広げるための学生が主体的に運営するワークショップなども特徴の一つです。



マテリアル工学科の3つのコース



3年生海外大学研修プログラム(ケンブリッジ大学・EPFL)



3年生の時間割例

3年 S1S2 (上:S1、下:S2)

	月	火	水	木	金
1限					
2限	材料電気化学 金属材料学	材料強度学 高分子科学 I	数学 2F	材料電気化学 金属材料学	材料強度学 高分子科学 I
3限	マテリアル工学実験 I	材料反応工学 半導体物性学	応用熱力学	マテリアル工学実験 I	材料反応工学 半導体物性学
4限		固体物性学 表面・界面化学	組織形成論		固体物性学 表面・界面化学
5限		マテリアルシミュレーション I			マテリアル工学輪講

3年 A1A2 (上:A1、下:A2)

	月	火	水	木	金
1限					
2限	セラミック材料学 デバイス材料工学	材料力学 II 生産プロセス工学	数学及び演習	セラミック材料学 デバイス材料工学	材料力学 II 生産プロセス工学
3限	マテリアル工学実験 II 分子細胞生物学	マテリアル環境学 材料信頼性学	マテリアルシミュレーション II	マテリアル工学実験 II 分子細胞生物学	マテリアル環境学 材料信頼性学
4限	マテリアル工学実験 II	高分子科学 II 薄膜プロセス工学	応用マテリアル工学	マテリアル工学実験 II	高分子科学 II 薄膜プロセス工学
5限					

卒業後の進路情報

専門性を活かした総合力を発揮し、多様な分野で幅広く活躍する

マテリアル工学科では学部卒業生の90%以上が大学院修士課程に進学し、引き続き学業に励んでいます。修士課程修了後、多くの卒業生が日本の主要輸出産業である鉄鋼・素材関連分野をはじめ、自動車や電機の企業、さらには製薬、医療機器メーカーなど多彩な分野において幅広く活躍しています。また、大学や研究機関などのアカデミズムの領域でもマテリアル出身者が多く活躍しています。「自分のしたいことを見つけ、それを社会貢献につなげる」これがマテリアル工学科の卒業生の進路です。



在校生からのメッセージ

ひとりひとりの可能性がここから花開く

A コース (バイオマテリアルコース) 学部 4年 中西有里絵さん

マテリアル工学は物理、化学、生物学を始めとする広範な基礎知見が必要な学問のため、カリキュラムにはコース間の垣根がほとんどなく、さまざまな講義の履修を通じて、マテリアル工学を学び、俯瞰することができます。そのため、学科に進学してから、今まで気づいていなかった、自分の興味のある分野に出会うことができます。色々な知識に触れて、ナノ、環境問題にも視野を持って、バイオマテリアルの研究をしたいと思うようになりました。



B コース (環境・基盤マテリアルコース) 修士課程 1年 谷和樹さん

マテリアル工学科はコースに関わらず、金属、半導体、高分子など、材料に関する様々な講義を受けることができます。また、「マテリアル工学自由研究」や「マテリアル工学輪講」などの講義では、少人数のグループに分かれて興味を持った点に絞って深く学ぶことができます。幅広く学べ、さらに、興味のある分野を深く掘り下げる授業もあり、バランスよく受講できることが、この学科だからこそできることだと思います。



C コース (ナノ・機能マテリアルコース) 博士課程 1年 二塚俊洋さん

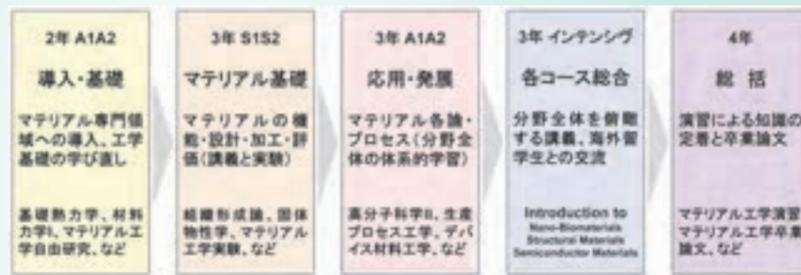
α -Al₂O₃というセラミックス材料の結晶粒界構造を電子顕微鏡で観察し、さらに理論計算を組み合わせることで、物性発現のメカニズムを原子レベルで研究しています。現代社会においては、基礎原理・基本法則に基づいた合理的な材料開発が重要となってきています。マテリアル工学の基礎を理解することで、最先端の材料を自分自身の手で作ることができるかもしれない。一緒に新しい夢の材料を作ってみませんか？



カリキュラム紹介

大きな可能性を育てるカリキュラム

マテリアル工学科のカリキュラムは、2年生A1A2を基礎・導入と位置づけ、3年生では各マテリアルの基礎と応用に関する講義をおこない、4年生S1S2の講義でこれらを総括し、マテリアルを応用する上での俯瞰的な知識体系が完成するように計画されています。各コースにあわせて、個々のマテリアルの特色や用途を様々な切り口で学ぶとともに、未踏領域へ踏み出すために必要な、基礎から根本的に考える能力を養います。さらに、マテリアルへの興味を広げるための自由研究プログラムや、マテリアル工学・技術の産業応用を体験する実地演習をおこなうプログラムも用意しています。また、卒業論文研究では30以上の多彩な研究室から希望の研究分野を選び、教員1人あたり学生2~3人の少人数指導を受けることができます。



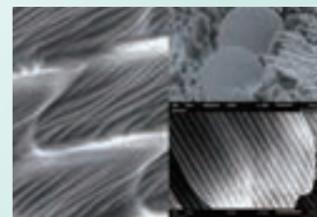
カリキュラム概略図



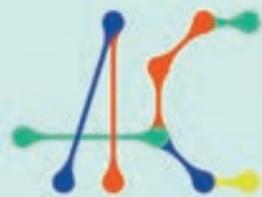
実地演習(工場見学)



卒業論文研究



電子顕微鏡



「21世紀は新しい応用化学の時代」

応用化学科では、「講義」と「実験」の有機的連携から化学の基礎的なセンスを磨く教育を行い、また化学をベースとした広範囲かつ最先端のテーマに取り組んでいます。

TEL / FAX : 03-5841-7231 (内27231)
E-mail : director@appchem.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.appchem.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

21世紀は新しい応用化学の時代

応用化学科では、化学を基礎として環境・エネルギー・情報など多岐の分野にわたる基礎・応用研究を展開しています。高度に有能な研究者、技術者を養成するために、まず基礎学力の修得に力を入れます。さらに高度な専門知識を吸収させ、卒業論文・修士論文・博士論文研究で実践的な能力を養います。

具体的には、光にตอบสนองして機能を発現する材料の開発、新エネルギー開発、半導体製造の基盤技術開発となるナノテクノロジー、超伝導や様々な機能を有する材料の開発とその物性研究、分子1個の挙動を解明する分光化学やナノスケール化学実験プロセスの開発、環境保全のための触媒化学研究、自己組織化による物質創成研究、次世代高分子材料の開発などの多分野にわたり、基礎から応用研究まで幅広く展開されています。



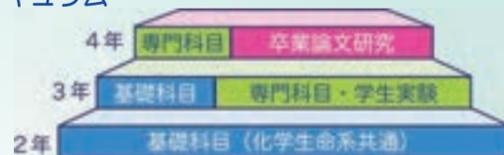
カリキュラムの紹介

自然科学の基礎から専門まで階層的に学べる充実したカリキュラム

応用化学科では多岐にわたる分野の研究を行っています。2年生(A1A2)ではまずどの分野に進もうとも通用する自然科学の基礎を学び、「根」を築きます。3年生では、専門科目や学生実験を通して、専門性の高い知識や基本的な実験スキルなどを身につけ、しっかりした「幹」を築きます。

2、3年生の講義・実験は、化学・生命系3学科の教員が協力して行い、基礎科目から専門性の高い知識を階層的に学び取れるような工夫がなされています。第一線で活躍している人を産・官より講師として招き、企業での研究開発の最前線や科学政策などに関する講義も行っています(「フロンティア化学」など)。また、講義の一環として工場見学も行っています。化学・生命系3学科の共通講義以外にも、他学科・他学部の講義も履修可能です(10単位までは卒業に必要な単位の中に算入できます)。

4年生になると、これまでに築き上げてきた「根」「幹」をベースに応用化学科が誇るスタッフ陣のもとで最先端研究(卒業論文研究)を進めながら、実践的な「実」のある教育が行われます。



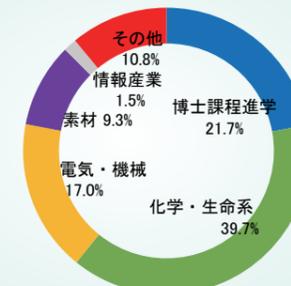
3年生の時間割例

3年 S1S2						3年 A1A2					
限	月	火	水	木	金	限	月	火	水	木	金
1	物性論Ⅱ	物理化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	量子化学Ⅱ	化学反応論Ⅰ	1		物理化学Ⅲ	有機化学Ⅳ	高分子化学Ⅱ	化学反応論Ⅱ
2	化学工学Ⅱ	分析化学Ⅲ	数学2F	無機化学Ⅱ	高分子化学Ⅰ	2		ケミカル・バイオ・インダストリー	エネルギー工学Ⅱ		無機化学Ⅲ
3	フロンティア化学					3				有機物性論	
4	分子集合体化学	分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習	化学・生命研究論理	分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習	分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習	4	応用化学演習	物理化学実験及演習・化学工学実験及演習	物理化学実験及演習・化学工学実験及演習		物理化学実験及演習・化学工学実験及演習
5			情報工学概論			5					

卒業後の進路情報

応用化学科の卒業生は研究開発を中心に幅広い分野で活躍しています。

例年、応用化学科の卒業生の9割以上が大学院に進学し、修士課程終了後におよそ2割が博士課程に進学しています。右は、過去5年間の応用化学専攻修士課程修了者の進路です。



[化学]
旭硝子, 旭化成, 富士フイルム, JX日鉱日石, 住友化学, 東京ガス, 東レ, 花王, 信越化学工業, 三菱ガス化学, 三菱化学, 三井化学, JXエネルギー, デュボン, 東燃ゼネラル石油, 日本触媒, 日立化成昭和, AGC, シェル石油, 積水化学工業, プリチストン
[電気・機械]
キヤノン, トヨタ自動車, 日産自動車, パナソニック, 旭化成エレクトロニクス, 日立製作所, シャープ, ソニー, テンソー, 東芝, 豊田自動織機, 富士通, 本田技研, 村田製作所
[素材]
昭和電工, 新日鐵住金, 京セラ, 新日本製鐵, JFEエンジニアリング, 住友電工, 古河電工, JFEスチール, 三菱重工, 三菱重工業, 三菱マテリアル
[情報・その他]
アクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ, NTT, NTT通信, ソフトバンク, 日本IBMシステムズエンジニアリング, 東京海上日動, 特許庁, 三井物産, アクセンチュア, 野村総合研究所

学生が語る応用化学科と学生による最新の研究成果



私が応用化学科・専攻を選択した理由として「幅の広さ」があります。応用化学科に進学してからはまず教科書の知識を学んだり、基礎実験を行ったりすることで化学の基礎を身につけます。それだけでなく各研究室が行っている最先端の研究も学ぶことができます。幅広い研究内容を知ること、興味がある研究を見つけることができるかと思っています。私は現在、生体内ではたらくタンパク質であるATP合成酵素の触媒機構の研究を行っています。私が注目しているF1には化学反応と共役して回転運動を行うという興味深い性質があります。応用化学科に進学してはじめて今の研究を知り、その面白さを感じてこの研究を進めています。面白そう、やってみたく思ったことにチャレンジできるのは学生生活だけだと思います。化学が好きだな、応用化学科・専攻に進学してみたいなというみなさんをお待ちしています。

工学系研究科応用化学専攻 野地研究室
博士課程3年 小林 稜平

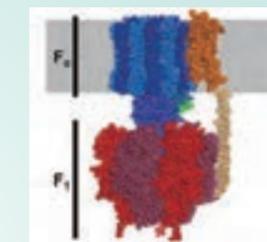


図1 ATP合成酵素は大きく分けてFoとF1の2つからなる

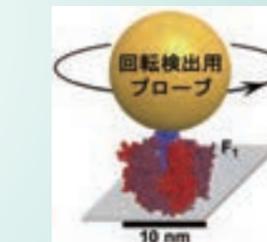


図2 ガラス上にF1を固定し、目印となるプローブを付けることで、F1の回転運動を観察している



化学とシステムの思考で、人類が直面している社会課題解決への
ビジョンを提示し、リアルタイムの社会貢献を目指すことができる学科です。

TEL 03-5841-8502
E-mail : koho2021@chemsys.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.chemsys.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

「化学」と「システムの思考」で
社会を学び、社会を先導する

人類が直面する社会課題は、ますます複雑化しています。しかし、化学の知識に基づいて、俯瞰的な視点からそれらの課題をシステムとしてとらえてみましょう。混沌としていた現象同士の繋がりが相互作用が論理的に整理され、その姿をはっきりと見ることが出来ます。化学システム工学科は、システム全体としての最適解を実現するために、様々な化学知を融合し、具体的かつ現実的なソリューションを提示することで、リアルタイムに社会に貢献しています。

その研究分野は次世代電池や再生医療の材料開発を行っている実験系の研究室からマルチシミュレーションや循環社会システム設計を行う非実験系の研究室まで多岐に渡っています。実験と計算機科学を融合させた研究を進めている研究室もあります。

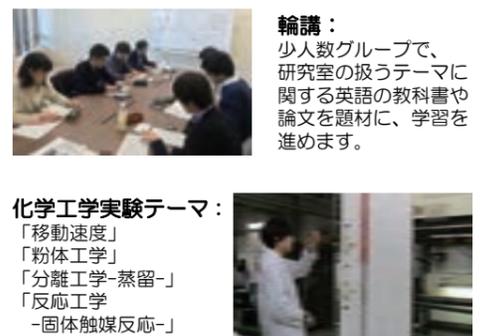
化学知を社会に



カリキュラム紹介

物質を自在に操ることのできる「化学」と、その技術と社会をつなげる「システムの思考」を習得できます。

2年生では、物理化学、量子化学などの基礎化学を徹底的に勉強します。オムニバスで学科の研究内容を広く学ぶ講義もあります。3年生になると化学工学、反応工学といった化学システム工学の基礎講義に加え、講義と組み合わせた演習や余裕のある学生実験などで実際に体を動かし、座学で身に着けた知識を自分のものにしていきます。プログラミング・情報系教育にも力を入れています。また、2・3年時は、単位取得や学生生活について気軽に相談できるコンタクトグループを作ります。一つのグループを複数の教員が担当し、手厚くサポートしています。4年生からは自分のデスクができ、研究室での研究が生活の中心となります。教員や研究室の先輩と密なコミュニケーションをとりながら、実験やシステム設計など、それぞれが自主的に研究を進めます。学会発表を行うこともあります。卒業論文を提出し、2月の最終発表が終わる頃には、化学の知識とシステムの思考を兼ね添えたエンジニアとしての確かな第一歩を踏み出しています。



3年生の時間割例

3年 S1S2						3年 A1A2					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1限	応用物性工学	物理化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	量子化学Ⅱ	化学反応論Ⅰ	1限	化学流体力学	伝熱工学	統計解析	化学工学及び演習Ⅰ	分離工学Ⅰ
2限	化学工学Ⅱ	環境システム工学Ⅰ	数学2F	プロセスシステム工学Ⅰ	高分子化学Ⅰ	2限	反応工学Ⅰ	エネルギー工学	プロセスシステム工学Ⅱ	高分子化学Ⅱ	化学反応論Ⅱ
3限	バイオテクノロジーⅠ		物理化学及び演習Ⅱ			3限	化学システム工学輪講			バイオテクノロジーⅡ	
4限		分析化学実験及び演習 有機化学実験及び演習 コンピュータ化学演習	化学・生命研究論Ⅱ	分析化学実験及び演習 有機化学実験及び演習 コンピュータ化学演習	分析化学実験及び演習 有機化学実験及び演習 コンピュータ化学演習	4限		物理化学実験及び演習 化学工学実験及び演習 生命工学実験及び演習	物理化学実験及び演習 化学工学実験及び演習 生命工学実験及び演習		物理化学実験及び演習 化学工学実験及び演習 生命工学実験及び演習
5限						5限					
	化シス独自講座		化生系共通講座		実験・演習						

卒業後の進路情報

化学系企業にとどまらず、卒業生は幅広い分野で活躍しています。共同研究や実践的教育で培った産業界との連携が、学生の就職支援にも活かされています。

学部生の9割は、大学院に進学した後に就職します。化学システム工学科/専攻では、基礎化学から材料設計やシステムまで多くのことを学ぶため、幅広い分野に就職実績があります。博士課程に進学した学生の多くは、大学などの公的機関や民間企業の研究職に就いています。また、産学連携のための専任教員がいるので、就職についても手厚い支援をしています。

2019年度の修士学生の進路



【主な就職先】

化学・素材系	三菱ケミカル、三井化学、住友化学、旭化成、富士フィルム、昭和電工、BASF、帝人、東レ、東洋化学、クレハ、信越化学工業、宇部興産、花王、プリジストン、東洋タイヤ、新日本製鐵、王子製紙
電気・機械・エンジニアリング系	東芝、日立製作所、ソニー、シャープ、日本電気、トヨタ自動車、本田技研工業、日産、千代田化工、東洋エンジニアリング、三菱重工業、IHI、ABB、キーエンス
エネルギー・運輸系	ENEOS、出光興産、昭和シェル石油、関西電力、中部電力、JRR東日本
製薬・食品系	塩野義製薬、大正製薬、中外製薬、第一三共、武田薬品工業、日清製粉、サントリー、日清フーズ、味の素、アサヒ飲料
IT	DMM、日本IBM、NTT東日本
官公庁・シンクタンク	総務省、厚生労働省、三菱UFJ総研、大和総研、日本総合研究所、電力中央研究所
商社・金融・コンサルタント	伊藤忠商事、丸紅、三菱UFJ信託銀行、日本政策投資銀行、マッキンゼー、アクセンチュア、ポストコンサルティング、アビームコンサルティング、Mars and Co

卒業生からのメッセージ

学部から修士まで、化学システム工学科に在籍し、医療用材料の研究をしていました。現在はライオン株式会社にて、海外向け歯磨の開発に携わっています。私が卒業生として感じる、化シスの魅力を2つご紹介します。

①研究を社会に還元できる化シスでは幅広い分野の研究がなされていますが、多くの研究が社会と深く繋がっています。新しいものを作ることを目的とするのではなく、それをどう社会に生かすか、社会の問題をどう解決するかを考えるのが化シスの研究です。この研究に対する姿勢は、企業で働く上でも非常に重要だと感じます。
②多面的な考え方を得られる通常の講義や実験だけでなく、企業に短期間在籍して研究する実習や、他研究室の先生の下で研究する授業があります。自分の研究に没頭すると、近視眼的になりがちですが、多彩なカリキュラムにより、視野を広く持つことができます。化シスには他にもたくさんの魅力があります。成長できる化シスという環境で、存分に研究の楽しさを感じてくださいね！



松浦麻衣(2017年修士修了ライオン株式会社)



「化学」と「バイオテクノロジー」の融合が切り開く新たな領域
—医療・環境・エネルギー関連分野へ革新をもたらす—

TEL : 03-5841-7213 FAX : 03-5841-7359
E-mail : welcome@chembio.t.u-tokyo.ac.jp
URL : http://www.chembio.t.u-tokyo.ac.jp

学科の紹介

●化学生命工学科は、人類社会に革新的な価値を創造する学科です！

化学生命工学とは、有機化学と生命工学を融合して誕生した新しい学問領域です。“分子”を共通キーワードとして化学からバイオテクノロジーまでの幅広いスペクトルの研究と教育を行っています。あらゆる生命現象を分子レベルで解き明かし、それらを基盤とした化学合成によって、新規の機能性分子をデザインしたり、化学の力を借りて、全く新しい生命システムを創成することを目指しています。化学生命工学科は、医療・創薬分野にとどまらず、環境・エネルギー関連分野など、持続可能な人類社会に貢献する新しい工学分野として多くの成果をあげています。

様々な生命現象は最終的には、分子レベル、化学反応レベルで説明することができます。遺伝子発現の制御、細胞内外の情報伝達、生合成や代謝など、複雑な生命システムを分子レベルで解き明かした時に、私たちは初めて、発生や分化、脳の神経回路、免疫システム、疾患など、複雑で精妙な高次生命現象を説明することができます。自然をお手本として、自然を凌駕する機能性分子、生命システムの創造と応用こそが私たちの究極の目標です。



カリキュラム紹介

●化学と生命科学のダブルメジャーが化生の特徴！

化学生命工学科は、有機化学、高分子化学などの化学系と、生命化学や分子生物学などの生命系の二つの学問領域を、本格的に教育することのできる唯一の学科です。このようなダブルメジャーの教育は、化学と生命の融合に立脚した研究に必要であり、学生諸君が将来、様々な分野で活躍し、新しい価値を生み出すための素地となります。また、演習や実験を通して、専門科目で学んだ知識を生かす実用性の高い教育を行います。



3年生の時間割例

●専門性を身につける実践的なカリキュラムです！

3年生は、午前中は講義で専門科目を学び、午後は実験と演習で学んだ知識を実践するというカリキュラムが中心です。

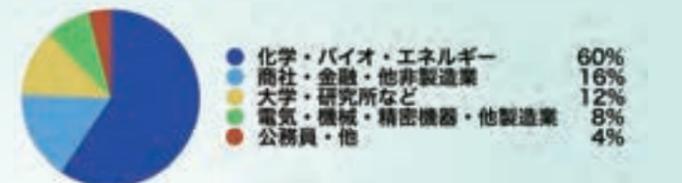
3年 S1S2					
	月	火	水	木	金
1限	化学工学Ⅱ		有機化学Ⅲ	無機化学Ⅱ	高分子化学Ⅰ
2限	分子生物学Ⅰ、Ⅱ	物理化学Ⅱ	数学2F	量子化学Ⅱ	化学反応論Ⅰ
3限	バイオテクノロジーⅠ	有機化学実験及び演習 (分析化学実験及び演習、 コンピューター化学演習)	分子生物学Ⅰ、Ⅱ	有機化学実験及び演習 (分析化学実験及び演習、 コンピューター化学演習)	有機化学実験及び演習 (分析化学実験及び演習、 コンピューター化学演習)
4限	分子集合体化学		化学・生命研究論理		
5限	化学生命工学最前線				

3年 A1A2					
	月	火	水	木	金
1限		物理化学Ⅲ	有機化学Ⅳ	高分子化学Ⅱ	化学反応論Ⅱ
2限	分子生物学Ⅲ	ケミカル・バイオ・インダストリー	生命化学演習	化学工学及び演習Ⅰ	分離工学Ⅰ
3限	有機・高分子演習	生命工学実験及び演習 (物理化学実験及び演習、 化学工学実験及び演習)	生命工学実験及び演習 (物理化学実験及び演習、 化学工学実験及び演習)	バイオテクノロジーⅡ	生命工学実験及び演習 (物理化学実験及び演習、 化学工学実験及び演習)
4限					
5限					

卒業後の進路情報

●化生の卒業生は企業とアカデミアの幅広い分野で活躍しています！

卒業後の進路は様々ですが、多くの卒業生は学部・大学院での研究内容を活かした進路を選択しています。ほとんどの学部卒業生は大学院へ進学します。修士課程終了後は、約30%が博士課程へ進学する他、就職先のおよそ半数が化学、食品、製薬関連の企業(最近5年間の実績、修士・博士課程修了者の合計)です。それ以外では、国内外の大学や研究施設、環境・エネルギー分野など、活躍の場は多岐に渡っています。



- 【化学・バイオ・エネルギー】
・化学/三菱ケミカル、住友化学、三井化学、旭化成、富士フイルム、積水化学工業、JSR、3M(ジャパン)、BASF、LG Chem、日華化学、日本触媒、デンカ、ダイセル、ほか
- ・繊維/東レ、帝人、ほか
- ・医薬品/中外製薬、協和発酵キリン、第一三共、アステラス製薬、武田薬品工業、塩野義製薬、田辺三菱製薬、小野薬品工業、大正製薬、旭化成メディカル、ほか
- ・化粧品/資生堂、花王、コーセー、ポーラ化成工業、コスモビューティー、ほか
- ・食品/味の素、サントリー、キリン、明治、日清食品、森永乳業、雪印メグミルク、ほか
- ・素材/AGC、プリヂストン、日本電気硝子、アイカ工業、LG/ハウス、ほか
- ・エネルギー/JXTGエネルギー、昭和シェル石油、大阪ガス、日本エアリアル、ほか
- 【電気機器・機械・精密機器・他製造業】三菱重工業、オリンパス、デンソー、ダイキン工業、テルモ、東洋エン지니어リング、ブラザー工業、キオクシア、セイコーエプソン、DNP、JFEスチール、LIXEL、ほか
- 【商社・金融・他非製造業】野村総合研究所、NTTデータ、丸紅、BCG、DTC、アクセンチュア、MDPI Japan、ほか

先輩からのメッセージ

『生命とは』元々は宇宙工学に興味があった私でしたが、前期教養学部時代に生命科学の講義を受けてこの問いに出会い、学びたい分野がガラリと変わりました。自己複製や代謝などの生命活動の根底は分子の化学反応です。そのため、真の意味で『生命』を理解するには化学と生命科学を両面から学ぶ必要がある。そう考えて本学科を選択しました。学部3年次には「早期研究室配属」というプログラムに参加し、通常よりも早く研究室に配属されました。最先端の研究に触れる楽しさはもちろんのこと、座学と研究がリンクするので授業の面白さが一層感じられ、非常にいい機会でした。研究室では、配属当時より興味があった、生体内で重要な機能を持つタンパク質を操る分子の設計を行なっています。当時は修士で就職の予定でしたが、研究の面白さに取り憑かれ、気づけば博士課程への進学を決めているほどでした。

研究はわからないことだらけです。だから面白い。もちろん上手くいった時の喜びは、表現しようがありません。さらに本学科には、そういった研究を楽しむ学生を全力で支えてくださる教員がいます、制度があります。共に研究を楽しみ、共に夢を描ける仲間がいます。研究するには最高の環境です。皆さんも私たちと共に本学科でサイエンスの楽しさを味わってみませんか？



(細野 裕基 化学生命工学専攻 博士課程 在学中)



学科の紹介

多次元の問題解決力を総合化できる人材育成
社会が何を必要としているのか、そのために何を作るのか、どのようにデザインし機能させるか。
3つのコースで専門教育を行い、問題の設定と解決ができる人材育成を行います。



Aコース
環境・エネルギーシステム(E&E)

人類が直している最も難しい問題のひとつ「環境・エネルギー問題」に挑む

キーワード

発電 エネルギー経済 海洋 省エネ 温暖化対策
燃料電池 カーボンニュートラル エコカー
超軽量炭素材料 レアメタル メタンハイドレート
海底鉱物資源 CO₂貯留 微生物共生 バイオ燃料
原子力エネルギー 放射線計測 放射性廃棄物処分
医学物理 プラズマ

研究一例

- エネルギーインフラの安全設計と先進材料
- 触媒技術に基づくエネルギー資源の創製
- 黒潮エネルギーを掴む水中浮遊式潮流発電
- 宇宙ロボをつなぐプラズマ物理
- 資源再生工学:社会システムと資源利用の最適化
- 微生物を用いたCO₂変換・技術

Bコース
システムデザイン&マネジメント(SDM)

複雑システムにおける情報とシミュレーション
生命原理をコアとしたカリキュラム

キーワード

原子・分子・量子エレクトロニクス 流体力学
材料力学 量子ビーム 放射線 原子力 核燃料
医用工学 数値解析 計数化学 知能情報学
社会システム工学 認知システム工学 計数社会科学
学 テキストマイニング

研究一例

- 都市交通システムのシミュレーション
- 株価の最小単位を決めるシミュレーション
- 光・電子とAIでスマートものづくりの実現を目指す
- 深層学習による動画の中の人の行為の認識
- 混相流シミュレーションとコンピュータグラフィックス
- 原子力システムの各局面におけるマネジメント(材料、放射線、リスク、経済、等)

Cコース
知能社会システム(PSI)

理系と文系の垣根を超えたデザインテクノロジー
とテクノロジーマネジメントの教育

キーワード

人工知能 深層学習 ビッグデータ モニタリング
情報工学 ブロックチェーン 政策 経済 マネジメント
システムズエンジニアリング 設計 統計学
不確実性 応用数学 力学 資源 エネルギー
物流 社会システム 北極 南極 深海底 宇宙

研究一例

- 現実世界の構造や現象をデータから学習しモデル化
- 産業分野における機械やロボットと深層学習の融合
- 不確実性を定量的評価し、意思決定の合理化やシステムの最適化に結び付ける「不確かさを捉える数理」
- 大規模な人間の移動データから人間関係を分析
- 極地から地球環境を見る／観る／診る／見る
- 宇宙資源という視点の太陽系探査

カリキュラムの紹介

システム創成学科では、トップダウン的な専門知識の伝授というスタイルの教育を止め、学生が将来で会うであろう複雑で不明確な諸問題に対して「どのように対応するか」ということに力点を置いた教育を志しています。そのために、知識や事実、法則、原理などの Know-What に加え、それらの知識を使う方法、活かす方法、つまり「知」としての Know-How を積極的に習得することを目標とします。



時間割

最新版の時間割は学科ウェブサイトでご確認ください。
<https://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/timetable/>



卒業後の進路情報

システム創成学科の卒業生は十分な基礎学力とともに、人類や社会が抱える今日の課題について問題を自ら提起し取り組んでいく能力が備わっているため、産官学の各方面にリーダーシップを発揮できる人材として活躍することができます。



- 多彩な就職先(大学院進学後も含む)**
- 金融・保険: 三菱東京UFJ、大和証券、野村證券、JPモルガン証券、Morgan Stanley、McKinsey & Company、SMBC日興証券、ゴールドマン・サックス証券、SGホールディングス、みずほFG、三井住友信託銀行、住信SBIネット銀行、日本生命保険相互会社、第一生命保険、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、損保ジャパン日本興亜
- コンサルティング: 野村総研、三菱総研、Boston Consulting Group、電通、博報堂
- 情報・通信: SoftBank、Google、楽天、ヤフー、Google Japan、サイバーエージェント、NHK、NTT東日本、NTTデータ
- 商社: 三菱商事、三井物産、伊藤忠商事、住友商事、丸紅
- 輸送・海事: 東海旅客鉄道、日本郵船、ヤマト運輸
- 資源・エネルギー: 国際石油開発帝石、JX石油開発、出光興産、九州電力、東京ガス、三井海洋開発
- 製造(機械・素材・精密): 三菱重工業、トヨタ自動車、ジャパンマリンユナイテッド、JFEスチール、東レ、Canon、Sony、日立製作所、P&G
- 官庁: 経済産業省、国土交通省、環境省、内閣府、警察庁
- 研究機関: 日本原子力研究開発機構、海洋研究開発機構、海上技術安全研究所、産業技術総合研究所、国内外大学

学科のアピール: 卒業生の声

卒業生の声をご紹介します。詳細はウェブサイトをご参照ください。



- A:環境・エネルギーシステム(E&E) 山本 聡一「物事をシステムと捉える思考力」**
- システム創成学科は物事をシステムとして捉える学科です。例えば、経済社会をシステムと捉えれば、技術は技術として素晴らしいだけでなく、どのような社会を見据えるかという視座が大事になる、制度は単線的な効果を目指すだけでなく、どのような生態系を作るかという視座が大事になります。私は、広い視野で世の中を見たい、多種多様な仕事に挑戦したいとの思いから、学部卒業後に経済産業省に入省し、中小企業政策に携わる中で、ビジネス側からアプローチしてみようと、ベンチャー企業「freee株式会社」に転職しました。物事をシステムとしてとらえる思考は、自分の行政官・ビジネスマンとしての発想の広がりにも強く影響を与えていると思います。
- B:システムデザイン&マネジメント(SDM) 横山 莉奈子「幅広い知識を身につけ、自分のやりたいことを見つける」**
- Bコースでは幅広い分野を学べます。物理系やプログラミングだけでなく、教養ではあまり習わなかった経済や物流など社会系の分野は新鮮でした。文系に分類されることが多い経済などの分野を理系の視点で学べるのも面白かったです。進学後は、材料力学や流体力学で慣れない数式に向き合ったり、システムやシミュレーションの授業で少し苦手なプログラミングやアルゴリズムで必死になったりすることもありました。それでも自分にとっては新しいことの連続で楽しい気持ちのほうを上回っていました。コース合同の授業も多いので友達もたくさんできました。必修がない時期もあるので留学や自分のやりたい活動にどんどん挑戦するのいいと思います。
- C:知能社会システム(PSI) 鎌田 麻衣子「興味の幅が広い人にぴったりのコース」**
- 理一で入学したのですが、前期教養の中で自分の興味は物理法則や化学物質というよりは、社会の動きや経済などより人に近い部分にあることに気付き、文転を考えていました。そんな時にCコースが専門技術に特化した工学教育ではなく、工学・科学的な根拠に基づいた広い視野を持って社会課題を解決する人材の育成を目指すコースであることを知り、自分になりたい将来像に近いと思い進学しました。私とは逆に、文系から理転して進学する人も多くいました。興味の幅が広く具体的にやりたいことは決まっていなくても、何か社会に生かせることがしたい・学びたいという人にぴったりのコースだと思います。